

告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

一太田増次郎ハ被害者庄助カ小林卯平等ニ毆打セラレタルハ見認メサルモ小林卯平方ニ立越シタル際被害者庄助ノ左手ヨリ血ノ出テ居ルヲ見受ケ又被害者庄助ノ顔色モ常トハ變シ居リ庄助ノ左手ヨリ血ノ出タルハ卯平方ヨリ庄助ヲ引出スル爪疵ヲ受ケ爲メニ出血セシト存ス云々ト申供セリ

一久田忠兵衛ハ小林卯平方於テ被害者庄助ト小林直次郎ト涼臺ニ腰ヲ掛ケ居テ直次郎カ申スニハ弟政助ヲ打タントシタル由政助ノ代リニ我ヲ打テ貰フカト大聲シ被害者庄助ノ肩ニ突キ當リ云々又被害者庄助面色變リ口ヨリ少々出血云々又左手ヨリ血流レ居ルヲ見受ケタル云々ト陳述セリ

一村松勝次郎ハ小林卯平等カ被害者庄助ヲ打擲セシハ見受ケサルモ其節被害者庄助ノ容貌ヲ見ルニ面色モ大ニ變シ且左手ニ少々疵ヲ受ケ血流レ居ルヲ見受ケタリ云々ト陳供セリ

醫師長瀬春臺ハ被害者庄助負傷實檢ノ際正ニ新疵ト診斷セシト陳述セリ

以上列舉セシ處ニ依レハ小林卯平等於テ金田庄助ヲ毆打創傷セシ者ト爲サ、ルヲ得ヌ又坂東仲藏ノ手續書ノ如シ大坂府下於テ明治十四年二月二十二日被害者庄助カ負傷セシナルモノトスルモ被告卯平等カ被害者庄助ヲ毆打創傷セシトスルハ明治十四年四月三日ナルカ故ニ既ニ四十日ノ久シキヲ經ルヲ以テ何ソ爪疵並腫起紫黑色等ノ存スル理アラン況ンヤ醫師長瀬春臺ニ於テ新疵ト診斷セシトヤ由是觀之被害者庄助ト被告卯平等ト唯口

論セシノミニアラス被告卯平等カ被害者庄助ヲ毆打創傷セシヤ判然タリ故ニ被告卯平等外二名ハ各闘毆律闘毆條初項ニ觸ル、モノトス然ルヲ神戸裁判所姫路支廳於テ罪證完備セサルヲ以テ罪ノ問フヘキナシト言渡シタルハ頗ル事實ニ適セサル不當ノ裁判ト認定セリ依テ上告致候也

辨明

兵庫縣七等警部藤井雅太於テハ醫師長瀬春臺診斷書及ヒ證人太田増次郎外二人ノ供述ヲ以テ被告人小林卯平小林直次郎小林政助等カ金田庄助ヲ毆傷爲シタルノ罪證ナリト辨論スト雖モ醫師ノ診斷書ヲ審閱スルニ(實檢ノ際正ニ新疵ト診斷仕候)トアル而已ニテ毆打傷ナル否ヤ其傷ノ原由ヲ審ニセス太田増次郎外二人ニ於テモ庄助カ顔色平常ニ異リタルト左手ヨリ少々出血スルヲ見認メタルニ止リ庄助カ毆打サレタルヲ目撃セシモノニ非ス是ヲ以テ毆傷ノ罪證ナリト爲スヲ得サルモノトス故ニ原裁判所ニ於テ罪證完備セサルヲ以テ罪ノ問フヘキナシト言渡シタルハ不法ノ裁判ニアラスト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月二十四日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ小林卯平小林直次郎小林政助ヘ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第八百六十四號

○判文(賭博ノ件)明治十四年五月廿九日上告
明治十四年六月廿四日判決

椽木縣下野國下都賀郡榎ノ

口村平民

神田半治

明治十四年五月

同縣同國同郡仲仕上ヶ村平民

鶴見藤藏

明治十四年五月

同縣同國同郡藤田村平民別

井巳之吉妻

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月廿日水戸裁判所榎木支廳ニ於テ右神田半治外二名へ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀別井幸藏等ト財物ヲ賭シ博戯セシ旨首出スト雖モ現行犯罪ニ非サル者ト認定ス依テ無罪

賭場ニ於テ賭錢借用證書ニ他人ノ氏名ヲ記入シ有合ヒノ印ヲ押捺スルモ無効ノ證書ニ

係ルヲ以テ其罪ヲ論セス

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

其方儀賭場ニ於テ神田半治ニ賭錢ヲ貸與シ利ヲ圖ルモ現行犯ニ非サル者ト認定ス依テ無罪

罪

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

二十三年

神田半治

ハ

明治十四年五月

第一條

其方儀神田半治等ノ博戯スルヲ默許スト雖モ現行犯ニアラサル者ト認定ス依テ無罪
榎木縣七等警部松島隆成ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月廿九日ヲ以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第二條

賭博律ナルモノハ現行非現行ヲ以テ罪ノ有無ヲ區別シタルモノニアラス證憑ノ具ハル者
ハ現行非現行ヲ問ハス總テ此ノ刑法ヲ適用ス可キ者トス然ルチ水戸裁判所榎木支廳ニ於
テハ該律ヲ誤解シテ現行犯ニアラサレハ總テ無罪ナリトナシ宣告シタルハ違法ノ裁判ト
ス

第三條

現行犯ヲ認メタル巡查ノ届書ニ對シ異議ノ申立アルニ際シ巡查ヲ推究セスシテ被告人ノ
偏言ヲ信用シ其ノ届書ヲ無効トナシタルハ亦不法ノ裁判ト謂フヘシ

是レ上告シテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

第一條

賭博犯罪ハ賭博條綱領第二項產業ナクシテ云々律例第二百七十一條等ノ如キ犯罪ヲ除ク
ノ外現在發覺ノ人賭具財物有ルヲ獲ルニ據リ坐スルニ止メ轉々相援引ス可ラサルモノナ
ルカ故ニ原裁判所カ被告神田半治外二名ノ罪ヲ現行犯ニ非サルモノトシ無罪ノ言渡シテ
爲シタルハ相當ノ裁判ナリトス

但巡查ノ届書ヲ採用スルト否ハ裁判官ノ職權ニ在ルヲ以テ原裁判所カ該届書ノ旨趣ヲ
採用セハルトテ不法ノ裁判ト爲スヲ得ス況ンヤ神田半治外二名ニ於テ巡查ニ看認ラレ
シトナキ旨申立シ口供アルニ於テチヤ

第二條

神田半治カ鶴見藤藏ヘ差入レタル證書ヘ他人ノ氏名ヲ記入シ有合ヒノ印ヲ押捺セシ罪ハ
該證書契約ノ効ノ有無ニ依テ定ルモノナレハ原裁判所カ右罪ヲ定ムルニ付其證書ノ有効
無効ヲ論セシハ當然ナルヲ以テ不法ノ裁判ト爲スヲ得サルモノトス

判決

右條々ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十日水戸裁判所樺木支廳ニ於テ神田半治外二名
ヘ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
第八百六十五號

○判文(反獄逃走ノ件) 明治十四年六月九日上告
明治十四年六月廿四日判決

兵庫縣攝津國菟原郡葺合村

小野新田吉田幸之助同居平

民

竹内勝次郎

明治十四年五月
三十一年七月

明治十四年五月三十日大坂裁判所ニ於テ右勝次郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀反獄逃走事件ニ付檢事ノ公訴ニ依リ審問ヲ遂クル處曩キニ懲役終身ノ刑ニ處セラ
レ服役中他ノ犯罪事件糾問ノ爲メ明治十四年五月三日大坂裁判所ヘ引出サレ囚人扣所ニ
於テ泉谷長藏ノ發意ニ同シ看守人ニ對シ暴動抗抵シ遂ニ逃走シタル者ト確認スルヲ以テ
改定律例第二百九十四條反獄逃走スル從タル者ニ依リ懲役終身ノ處改正懲役人又犯罪條
例ニ照シ棒鎖十日申付ル

勝次郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月九日本院ニ上告スル要領左ノ如シ
自分儀懲役終身服役中大坂裁判所ヘ呼出サレタル節未決囚泉谷長藏ノ發意ニ同シ看守人
ノ隙ヲ窺ヒ逃走後到底隱避ナシカタクト存同裁判所ヘ自首セント走行ク途中出張監獄署
詰看守青山某ニ出會ヒシヲ以テ自首可致旨申立其儘大坂裁判所ヘ連歸リ續テ監獄分署ヘ
交付ノ上糾問ヲ受ケ逃走及ヒ自首ノ顛末申立口供相濟後チ監獄本署ニ於テ曩キノ口供讀
聞セラレタルニ豈圖ラン自首ノコトヲ掲載セサルヲ以テ更ニ自首ノ口供相濟仍ホ大坂裁判

所審問ノ節モ自首シタル段申立置キタリ故ニ律例第六十一條ニ依リ止テ加等スヘキ罪ヲ減スヘキモノニテ棒鎖ニ處斷セラレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事

辨明

原裁判所ノ書類ヲ審閱スルニ松屋町監獄分署詰看守青山直忠カ景況書ニ「浮世小路ヲ西へ追跡セシ處魚ノ棚南へ入ル處ニテ竹内勝次郎ヲ捕縛シ云々」トアリ左スレハ竹内勝次郎カ自首シタリトノ申立ハ證左ナキヲ以テ採用シカクキモノトス故ニ原裁判所カ改正懲役人又犯罪條例ニ照シ棒鎖十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月三十日大坂裁判所ニ於テ竹内勝次郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第八百六十六號

○判文(賭博三犯ノ件)明治十四年六月十七日上告
明治十四年六月廿四日判決

千葉縣上總國武射郡岩山村
平民吉左衛門長男

秋葉辨藏

明治十四年六月二十七年

明治十四年六月九日東京裁判所千葉支廳ニ於テ右辨藏ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀土屋市太郎外二名カ博戯ヲ爲ス傍ニ寢臥其手合ニハ加ハラサル旨供出スレニ共犯

人土屋市太郎木内茂吉ノ口供及ヒ東金警察署柴山分署詰巡査高橋松太郎外二名ノ證告書ニ因リ事實ヲ推測スレハ財物ヲ賭ケ博奕ヲナシタル者ト認定ス右科儀キニ賭博ノ科ニ依リ兩度處刑受ルヲ以テ改定律例第二百六十九條ニ依テ懲役一年申付ル
但賭場ノ財物及ヒ骰子骨牌ハ取上ル

辨藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月十七日本院ニ上告スル要領左ノ如シ
自分儀半田平右衛門宅ニ於テ寢臥セシモ賭博ヲ爲シタル覺之ナク因テ改定律例第二百六十九條ニ依リ懲役一年ニ處セラレタルハ不法ノ裁判ナリトノ事

辨明

原裁判所ノ書類ヲ閱スルニ四等巡査秋谷佐十郎外二名カ證告書及ヒ共犯者土屋市太郎木内茂吉カ供狀ニ秋葉辨藏ニ於テ博奕ヲ爲シタルコトハ各陳述スル處相符合シ衆證明白ナルカ故ニ原裁判所カ賭博三犯ナルヲ以テ改定律例第二百六十九條ニ依リ懲役一年ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月九日東京裁判所千葉支廳ニ於テ秋葉辨藏ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第八百六十七號

○判文(強盜ノ件)明治十四年五月廿三日上告
明治十四年六月廿七日判決

岐阜縣美濃國厚見郡上加納

三九三

村平民

篠田竹次郎

明治十四年五月
四十年二ヶ月

明治十四年五月十四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ右竹次郎ニ左ノ裁判言渡シタリ
 其方儀同郡清村森島治太郎カ金五拾圓程兼テ懷中ニ所持セシヲ察知シ之レヲ奪ヒ得ン
 ナ圖リ明治十四年四月九日同人ヲ誘ヒ強テ酒ヲ勸メ仍ホ福田哲ト共々伊奈波國豐座ヘ芝
 居見物ニ同行無体ニ飲酒醉迷セシメ昏睡ニ至リタルヲ窺ヒ紫縮緬帛紗包紙入壹個及金貳
 拾壹圓五拾錢ハ在中ノ儘其懷中ヨリ取得タルモ銀行紙幣貳拾圓札壹枚ハ在中セサリシ旨
 申立ルト雖モ被害者ノ陳述ハ確實ナルヲ認メ得キニ依リ該金員モ在中ノ儘併セテ取リ
 得タルモノト認定ス右科改定律例第二百二十七條第二項ニ依リ贓金三拾圓以上懲役終身ノ
 處一等ヲ酌減シ懲役十年申付候事

篠田竹次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年五月廿三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ
 如シ

一〔治太郎カ金五拾圓程兼テ懷中ニ所持セシヲ察知シ之ヲ奪ヒ得ンヲ圖リ〕トハ何ヲ以
 テ判斷セラレタルヤ右治太郎トハ原ヨリ惡意ニシテ此日伊奈波國豐座ニテ芝居アルヲ知
 リ福田哲ヲ誘ヒ三人俱々見物ニ同行セシ處意外ノ大酒ニテ見物スルヲ能ハス依テ階子香
 トテ亦同所山鳥樓〔山川松〕ニ登リタルニ最早治太郎ハ香ヲ能ハス樓上ニ醉眠スルヲ不
 圖不良心ヨリ福田哲ヲ同意セシメ旁カニ懷中ヨリ紫縮緬帛紗包紙入壹個〔此中ニ紙幣二
 拾壹圓五拾錢

ア〕ヲ竊取シタル儀ニシテ治太郎カ醉眠スルモ該拂金ハ皆同人カ出金セシ儀ニシテ自分
 カ無体ニ飲酒醉迷セシメタル儀ハ毫モ無之ヲ自分カ無体ニ酒ヲ勸メタルトハ之レヲ不當
 ト言ハサルヲ得ス

一〔銀行紙幣貳拾圓札壹枚ハ在中セサリシ旨申立ルト雖モ被害者ノ陳述ハ確實ナルヲ認
 メ〕トハ不服ナリ如何トナレハ被害者ノ陳述ヲ確實ト申シ難シ其中シ難キ所以ハ始メ告
 訴スルニハ四拾七圓五拾錢ト申シ御調ヘノ末追々相減シテ終ニ四拾壹圓五拾錢ト相成如
 シナレハ何ソ被害者之申立ヲ確認セラレテ之レヲ贓金ニ加ヘ例第百廿七條第貳項ニ處
 斷サレタルハ不當ナリト言フナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ涉獵スルニ上告人篠田竹次郎ニ於テ森島治太郎カ多分ノ金
 員所持スルヲ察知シ強テ同人ニ酒ヲ吞マシメ醉迷シタルニ乘シテ之ヲ搶奪セシヲ謀リ
 遂ニ其目的ヲ達シタル犯情ハ本犯竹次郎カ口供ト當時酒席ニ侍テ其興ヲ助ケタル日比勝
 枝カ陳述トニ依テ明白ナリ故ニ〔治太郎カ金五拾圓程兼テ懷中ニ所持セシヲ察知シ之ヲ
 奪ヒ得ンヲ圖リ〕トノ裁判アリシハ相當ナリトス
 又原被兩造ノ陳述ヲ聽キ而テ其罪ヲ斷スルハ專ラ裁判官ノ信認スル處ニアリ故ニ告訴人
 森島治太郎ノ申立ヲ眞實ノ陳述ナリトシ銀行紙幣貳拾圓札壹枚トモ紙入レニ在中シタル
 モノト認定セシハ不當ノ判定ト爲ス由テ原裁判所ニ於テ例第百二十七條ニ依リ贓
 金三拾圓以上ヲ以テ斷了シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年五月十四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ篠田竹次郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第八百六十八號

○判文(強盜ノ件) 明治十四年五月廿三日上告
明治十四年六月廿七日判決

岐阜縣美濃國惠那郡苗木村
士族

福田哲

明治十四年五月

岐阜縣美濃國本巢郡柱本村

平民當時同縣同國厚見郡岐

阜間ノ町寄留

木野村利三治

明治十四年五月

三十四年十月月

福田哲

明治十四年五月十四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ右哲及ヒ利三治ニ左ノ裁判ヲ言渡タリ
其方儀明治十四年四月九日篠田竹次郎外壹名俱々森島治太郎所持ノ紫縮緬帛紗包紙入壹個及金貳拾壹圓五拾錢ハ在中ノ儘其懷中ヨリ取得タルモ銀行紙幣貳拾圓札壹枚ハ在中セ

ス將タ財ヲ圖ル爲メ豫メ竹次郎ト謀リ醉迷セシメタルニ非ラサル旨申立ツルト雖ヒ日比勝枝ノ證言ニ據レハ初メヨリ竹次郎ト通謀シ該金員ヲ奪ヒ得ンカ爲メ強テ飲酒セシメ醉迷ニ至ラシメタルノミナラス被害者ノ陳述ハ確實ナルヲ認メ得キニヨリ該貳拾圓紙幣モ在中ノ儘併テ取得タルモノト認定ス右科改定律例第二百二十七條第二項ニ依リ贓金三拾圓以上懲役終身ノ處一等ヲ酌減シ除族ノ上懲役十年申付候事

木野村利三治

其方儀明治十四年四月九日篠田竹次郎外壹名俱々森島治太郎所持ノ紫縮緬帛紗包紙入壹個及金貳拾壹圓五拾錢ハ在中ノ儘其懷中ヨリ取得タルモ銀行紙幣貳拾圓札壹枚ハ在中セカリシ旨申立ツルト雖モ竹次郎外壹名於テ財ヲ得ント圖リ治太郎ニ飲酒昏醉セシメタル情ヲ知得テ俱々犯シタルノミナラス被害者ノ陳述ハ確實ナルヲ認得キニヨリ貳拾圓ノ紙幣在中ノ儘併テ取得タルモノト認定ス右科改定律例第二百二十七條第二項ニヨリ贓金三拾圓以上懲役終身ノ處四等ヲ酌減シ懲役三年申付候事
福田哲及ヒ木野村利三治ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年五月廿三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

福田哲上告

一(將タ財ヲ圖ル爲メ豫メ竹次郎ト謀リ醉迷セシメタルニ非ラサル旨申立ツルト雖モ日比勝枝ノ證言ニ據レハ初メヨリ竹次郎ト通謀シ該金員ヲ奪ヒ得ンカ爲メ強テ飲酒セシメ醉迷ニ至ラシメタル)ト認定サレタルハ只婦女女子ノ勝枝カ上申テ證言セラレシモノニテ

其實際ハ該日治太郎竹次郎等カ誘ヒニ依リ芝居見物ニハ立越シ治太郎カ振舞ニテ互ニ酌酒ニ治太郎ハ大井ニ酔ヒ山鳥〔山川松〕ニ登リ又一杯ト下婢ニ命シ置終ニ其座ニ醉眠セシ〔此時木野村利〕篠田竹次郎カ發意ニテ治太郎ノ懷中へ手ヲ入紫縮緬帛紗包壹箇〔此内〕ニ紙幣貳拾壹圓ヲ竊取シ自分へ渡シタル利三治モ傍ニ居皆此ニ同意シテ竊盜シタル竹次郎ト豫テ謀リタルト勝枝ノ上申ニ據リ認定セラレシハ之ヲ不當ト思考仕候

一〔被害者ノ陳述確實ナルヲ認メ得キニヨリ該廿圓紙幣モ在中ノ儘併テ取得タルモノト認定ス〕ハ不服ナリ其不服ハ全ク得サル金ヲ被害者ノ陳述ヲ確認セラレテ賍金ニ加ヘラレシハ不服ナリ何ントナレハ被害者治太郎ハ原トヨリ虚言ニシテ訴出タル金ハ四拾七圓五拾錢ニシテ後チ四拾壹圓五拾錢トナレハ被害者ノ虚言ハ論ヲ待タス其虚言者ノ陳述ヲ確認サレ例第百廿七條第二項ニ照サレシハ不當ト言フナリ

木野村利三治上告

一〔篠田竹次郎外壹名於テ財ヲ得ント圖リ治太郎ニ飲酒昏醉セシメタル情ヲ知り得テ供々犯シタル〕トハ不服ナリ何トナレハ自分ハ此日伊奈波へ芝居見物ニ立越シタルヲ福田哲ノ誘ヒニ依リ山鳥樓ニ登リタレハ治太郎〔治太郎ノ名ハ二日間ヲ經テ知ル〕ハ傍ラニ睡眠セシチ竹次郎カ竊取シ後チ之レヲ自分ニ告ケ分配受タル儀ニシテ財ヲ得ンヲ圖リ治太郎ニ飲酒セシメタル情ハ曾テ存シ申サス又〔銀行紙幣ノ廿圓札一枚ハ被害者ノ陳述確實ナルヲ認メ得可キニヨリ〕ト認定セラレタルハ被害者ノ陳述確實トハ申シ難シ其中シ難キハ始メ告訴スルキハ四拾七圓五拾錢ト申立置御調ノ末ニ至ツテハ四拾壹圓五拾錢ニ減セシ如ク被害者

ニ於テハ虚言ヲ上申スルヲ明瞭タリ前述ノ如ク確實ト申シ難シ如斯ナルニ該金ヲ併セ例第百廿七條第二項ニ照サレシハ不當ノ申渡シト思考仕候ニ付謹テ奉上告候

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ涉獵スルニ上告人福田哲及ヒ木野村利三治ニ於テ篠田竹次郎ト共ニ森島治太郎カ多分ノ金員所持スルヲ察知シ同人ニ強テ酒ヲ呑マシメ醉迷シタルニ乘シテ之ヲ搶奪センヲ謀リ遂ニ其目的ヲ達シタル犯情ハ首謀者篠田竹次郎カ口供ト當時酒席ニ侍テ其興ヲ助ケタル日比勝枝カ陳述トニ依テ明白ナリ由テ竹次郎ト共ニ森島治太郎ノ所持金搶奪センヲ謀リ同人ニ強テ酒ヲ勸メタルニ非サル旨申立ルハ事實ニ相違シタル上告ニシテ申分相立ス

又原被兩造ノ陳述ヲ聽キ而シテ其罪ヲ斷スルハ専ラ裁判官ノ信認スル所ニ任スヘキモノナリ故ニ告訴人森島治太郎ノ申立ヲ眞實ノ陳述ナリトシ紙幣二拾圓札壹枚モ紙入ニ在中セシモノトノ認定ハ不當ノ判定ト爲テ得ス依テ原裁判所ニ於テ例第百二十七條ニ依リ賍金三拾圓以上ヲ以テ斷了シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年五月十四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ福田哲外壹名ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第八百六十九號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年六月三日上告
明治十四年六月廿七日判決

四〇〇
岡山縣備中國下道郡川邊村
平民
加藤正徳

明治十四年五月
二十五年三月

明治十四年五月二十五日京都裁判所ニ於テ右正徳ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
汝カ明治十三年九月十四五ノ兩日ニ雨宮宗七ヨリ得タル所ノ鉄瓶及ヒ瓶掛ハ詐取セルモ
ノニアラスノ全ク買求メタリ而シテ此鉄瓶等買求メノ爲ニ要スル金額ハ明治十三年九月
十五日迄ニ長谷川浩三郎ヨリ融通ヲ受ル契約ナル旨申立ルモ浩三郎ニ於テハ明治十三年
九月十六日頃正徳ヨリ金借方ノ依頼ヲ受タルニ付相應ノ抵當アラハ大坂表ニ知ル人アル
ニ付周旋可致答ヘシニ抵當品トテハ無之由ニテ其儘ニ相流レ餘ニ正徳ト金員周旋ノ事ニ
付談シ合シ事ハ無之旨申立ルニ據レハ彼ノ鉄瓶等ハ全ク詐取シタルモノニシテ買求メシ
モノニアラスト何トナレハ宗七ノ申述ニ據ルニ明治十三年九月十四日正徳カ買取ント
申立且止宿所迄運送方ヲ申聞ルヨリ持參ノ上金品引換ノ儀ヲ申入ル、ニ是非夕方ニ相渡
ストノ事ニ付其言ノ如クセシニ彼是申渡シ不吳翌十五日罷越候得ハ金壹圓ト證書ヲ渡セ
シヨリ不得止請取歸翌十六日立越タレハ既ニ前日何レヘカ出立セシ旨止宿所ナル大徳ヨ
リ承リタル旨供述セリ抑モ正徳ハ宗七ト相知ルノ人ニアラサレハ金品引換ニ賣買スヘキ
ハ勿論ナルニ明治十三年九月十四日ニハ先ツ翌日迄拂方延期ノ手段ヲ以テ物品ヲ受取置
キ尙ホ翌日ハ宗七ツ延期ヲ承諾セサルヨリ山本芳助ヘ五拾圓ノ貸金アル体ノ證書ヲ製シ

之レヲ示シテ宗七ヲ囑着シ鉄瓶代價ノ殘額三拾六圓ヲ明治十三年九月十六日晚迄ニ渡ス
トノ證書ヲ與ヘ遂ニ明治十三年九月十六日ニ至レハ宗七ヘハ何等ノ事ヲモ通報セズシテ
轉宿シ其鉄瓶等ヲ貳拾餘圓ノ低價ニ賣拂ヒタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ鉄瓶ヲ受取リシ前後
浩三郎ヨリ金員ノ融通ヲ受クヘキ事ナク且拂方ノ念慮ナキヨリ遂ニ其踪跡ヲ晦マシタリ
ト認ムルヲ以テ詐取シタルコトハアラストノ申分ハ立チ難シ又明治十三年九月十九日幹山
傳七ヨリ得ル所ノ陶器ハ六拾壹圓餘ニテ買取代金ハ四拾圓持參罷在ルニ付右内金ニ差入
レ殘ル貳拾圓ハ明二十日可相渡異議無之哉相尋タルニ傳七申立ニハ明日迄可相待云々ト
申立ルモ果シテ四拾圓ヲ持參セシナレハ登時内金トシテ差入ルヘキ筋ナルニ入金セサル
ノミナラス明治十三年九月十九日幹山傳七ヨリ陶器持參ノ際ハ皆金受取方ヲ請求セシモ
ノニシテ四拾圓ヲ内金トシ殘ル貳拾圓ハ翌日迄延期ノ事ヲ甘諾セシニハアラサルモ正徳
ヨリ入金ノ都合齟齬セシトノ事ニ付不得止明治十三年九月二十日ニ至リシモノナリ而シ
テ明治十三年九月二十日尙又傳七ヨリ金員受取ノ爲メ人ヲ遣シタレハ正徳ハ其所有ノ公
債證書ヲ賣却スル爲メ長谷川浩三郎等ヲシテ之レヲ取扱ハシムルノ体ニナシ幹山方ノ心
中ヲ安ニスル様相見セ二十一日迄延期ノ約定ナシタリト浩三郎ニ於テ供出シ又傳七ヨリ
明治十三年九月二十日正徳ハ其所有ノ公債證書ヲ賣却シ入金次第可相渡ニ付明二十一日
迄延期イタシ吳トノ事ナリシ旨申立遂ニ明治十三年九月二十一日傳七ヘ通報セシメテ大
坂ヘ罷越ス体ニ止宿所ヲ轉セシトニ據レハ該陶器ヲ詐取シ其踪跡ヲ晦シタルモノト認定
ス加之明治十三年十月十日頃政府ヨリ江州舊膳所藩士上村クニニ下付ノ授産金ヲ以テ

償却云々申立ルモ上村「クニ」ヲ喚問スルニ該金員ハ曾テ御下渡方ヲ願出置シモ其聞届アルト否トハ勿論金額ニ至ル迄豫知シ得ヘカラサルモノナリシニ明治十三年十一月十七日百六拾圓貸下ラレタル旨申立タリ左スレハ假令「クニ」ノ承諾アルニモセヨ其下渡ノ有無及ヒ下渡ノ時日及ヒ金額共未必ノ事ナレハ之レヲ以テ明治十三年十月十日迄ニ償却スルノ目途アルヘキ理由ナキヤ又長谷川浩三郎ト共ニ杉田三郎助方ニ於テ金瓶其他共都合七點ヲ得シヤ浩三郎ハ正徳ノ發意ニテ正徳ハ元兵庫縣少書記官ヲ勤メ居タルモノコト今般東京表ヘ相越シ外務省ヘ出仕可致モノニテ物品ヲ土産ニ持參可致ト申偽リ方可然ト申聞タル云々申立ルト杉田三郎助方浩三郎ハ正徳ヲ指シ此御方ハ元兵庫縣少書記官ヲ御勤相成居候處都合ニヨリ昨年ノ冬御退役相成今般東京表ヘ御越相成外務省ノ少書記官ニナラレ候ニ付御家族御引連レ東京ヘ御出立懸ナリ就テハ公債證書多分御所持ナレ共方今金貨購買ニ付公債ヲ賣拂骨董等ヲ買求メ度思召云々申立タル旨陳述スルトニ據レハ高價ノ物品ヲ詐取セン爲メ官吏ナリト詐稱セシメシ事判然タリ而シテ右代金ハ原諫三ナルモノヨリ融通ヲ受ルノ契約ナルニ諫三ハ大津驛ヨリ俄然郵信ヲ以テ違約ヲ申越タル旨供出スルモノノ證左アル事ナク且明治十三年九月二十九日付ヲ以テ加藤正周ヘ金圓送致方ノ郵信ヲ發シタル旨申立ルモ正周ニ於テハ金員遞送方申越或ハ書面等私手元ヘ着致候儀決テ無御座却テ正徳ノ懲治檻入ヲ願出シ後逃去シ今ニ行衛不分明ノモノナル旨申立タリ而シテ明治十三年九月二十九日杉田三郎助方ヘハ敦賀港ヘ罷越ス旨ノ信書ヲ發シ其踪跡ヲ晦マシタリ右ニ據レハ該物品ヲ詐取シタルモノト認定ス而シテ詐取シタル物品ヲ估計セシムルニ其

賍金三百八拾三圓貳拾五錢ナルヲ以テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年又兩宮宗七ヘ對シ貸金證書ヲ詐爲シタルハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日右ニ罪俱發スルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ懲役十年ノ刑ニ處スル者也

但銀瓶賣拂代金ノ殘額拾五圓及ヒ所持ノ雜品共賠償ノ爲メ没入ス

加藤正徳ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月三日付ヲ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

正徳カ兩宮宗七幹山傳七杉田三郎助三名ヨリ物品ヲ領收シタルハ素ヨリ真正ノ賣買ニシ其間ニ毫モ詭意騙心ノナキト逐條ニ具陳スル如ク其實狀ト條理ニ於テ明瞭タリ長谷川浩三郎其他關係人ノ申立ハ正徳ニ宿怨アリ或ハ正徳ノ利害ヲ顧ミズ自己ノ爲メニ圖ル者ナルヲ以テ孰レモ信用スヘカラサルニ因リ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ主權ナリ然レトモ其認定セシ理由ノ性質如何ノ點ニ於テハ本院ノ檢審スヘキモノタルニ依リ今上告ニ就テ一件書類ヲ審閱スルニ其事實ト認定セシ理由ノ性質ハ適法ノモノタルヲ以テ敢テ不當トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月二十五日京都裁判所ニ於テ加藤正徳ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第八百七十號

○判文(竊盜未得財ノ件)明治十四年五月廿八日上告
明治十四年六月廿七日判決

栃木縣下野國河内郡宇都宮
泉町平民

三村 榊造

明治十四年五月
五十四年六月

明治十四年五月廿六日水戸裁判所管内宇都宮區裁判所ニ於テ右榊造ニ左ノ裁判ヲ言渡シタ

其方儀鹿島僊松ニ貸シ附ケ置金貳拾圓ノ内追々ニ金拾三圓貳拾貳錢ヲ領受シタル處僊松
ニ於テ其受領書ヲ見失ヒタルヲ僊松トシ金拾貳圓三拾八錢ノ請求詞訟ヲ爲シ榊造チ金五圓
六拾錢ヲ詐取セントシタル科賊盜律竊盜條竊盜財ヲ得サルモノニ準擬シ懲役四十日申付
ル

栃木縣六等警部中隈輝雄ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十年五月二十八日付ヲ以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

改定律例二百四十七條ニ「凡對詔及ヒ奏事上書ヲ除ク外上ニ告クルニ詐テ實ヲ以テセサ
ル者ハ懲役一年事情輕キ者ハ懲役八十日」此ノ法文ヲ案スルニ對詔奏事上書ヲ除クノ外
官廳ニ對シ求爲スル處アリテ不實陳告ヲ爲スノ弊アリ因テ爰ニ注意シ本條ヲ設ケ一般官
廳ニ對シ總テ不實ノ陳告ヲナシタルモノヲ罰スルノ主義ヲラント信認セリ

辨明

改定律例第二百四十七條ハ對詔奏事上書ヲ除クノ外公務ニヨリ上ニ向テ報告等ヲ爲スニ
不實ノ事ヲ以テスルノ法律ニシテ私事上ニ汎用ス可キ者ニ非ス故ニ三村榊藏カ當初裁判
所ニ於テ不實ノ私訴ヲ爲スカ如キハ該律ヲ適用スルノ限リニアラストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年五月二十六日水戸裁判所管内宇都宮區裁判所ニ於テ三村榊
造ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第八百七十一號

○判文(酒類稅則ノ件)明治十四年五月廿三日上告
明治十四年六月廿七日判決

愛媛縣伊豫國西宇和郡九丁

浦平民

清酒營業人

菊地 傳布

明治十四年五月
二十八年五月

明治十四年五月二十三日松山裁判所管内大洲區裁判所ニ於テ右菊地傳布ニ左ノ裁判ヲ言渡
シタリ

其方儀釀造スル清酒三斗五升ヲ官ノ檢査ヲ經ス明ニ賣捌及檢査ノ際隱蔽スル清酒五斗九
升并ニ免許鑑札ヲ受ケヌシテ試ニ燒酎三升餘ヲ製造スル科酒類稅則第四章第三十一條第

四〇五

三十二條第三十四條ニ照シ右賣捌キ代價三圓五拾錢及酒類沒收ノ上造石稅三倍ノ科料金六圓并ニ罰金壹圓併セテ七圓申付ル

愛媛縣八等警部中野信明代理一等巡査田中正利ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月廿三日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

清酒隱蔽ヲ罰スルニ同則第三十一條第三十二條ヲ以テシ無免許燒酎蒸溜ヲ處スルニ第三十四條ヲ以テセリ然リ而シテ第三十四條ハ固同則第三章中ノ明文ニ背シモノヲ罰スルノ條ニシテ鑑札ヲ得スシテ蒸溜ヲ企テタルノ所爲ニ適用スルモノニアラス畢竟スルニ本件ノ如キハ第四章第二十九條第三十一條第三十二條ニ依テ並斷スヘキコソ至當ト思惟ス然ルニ原裁判爰ニ出テス第二十九條ノ適用ヲ轉シテ第三十四條ニ處シタルハ不法ノ裁判ト見込候條此段上告仕候

辨明

被告菊地傳布カ所爲ハ曩キニ酒類燒失ノ際庭上ニ流出セシ清酒ヲ汲取リ置檢査ヲ受ケスシテ販賣シ及ヒ隱蔽シタルモノ合九斗四升ノ科酒類稅則第三十一條第三十二條ニ依リ其酒及ヒ賣代金ヲ沒收シ且造石稅三倍ノ科料金五圓六拾四錢ニ處スヘク又無届ニテ燒酎三升貳合五勺ヲ蒸溜シ及ヒ其蒸溜器械ニ官ノ封緘ヲ受ケサルハ稅則第二十五條第二十六條ニ違背スルヲ以テ第三十四條ニ照シ罰金ヲ科ス可キモノトス而シテ被告人ハ既ニ酒造營業ノ免許ヲ受ケタル者ナレハ燒酎ヲ製造スルモ更ニ免許ヲ受ケルニ及ハサル者ナルヲ以テ第二十九條ニ依リ處斷ス可キモノニ非ス故ニ原裁判所ニ於テ稅則第三十一條第三十二條

三十四條ニ照シ處斷シタルハ相當ナリト雖モ科料金六圓ト宣告シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十三日松山裁判所管内大洲區裁判所ニ於テ菊地傳布ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

菊地傳布

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ明治十三年第四十號公布酒類稅則第三十一條第三十二條ニ照シ清酒九斗四升ノ造石稅三倍ノ科料及ヒ第三十四條ニ依リ罰金ヲ併科シ

科料金五圓六拾四錢
罰金壹圓

但隱蔽ノ清酒及ヒ賣捌キ代價ハ沒收ス

第八百七十二號

○判文(盜賊寄藏ノ件)明治十四年五月廿六日上告
明治十四年六月廿七日判決

秋田縣羽後國由利郡西目村

平民

常陸千代六

明治十四年五月
三十二年三月

明治十四年五月二十四日弘前裁判所管内本莊區裁判所ニ於テ右千代六ニ左ノ裁判ヲ言渡シ

其方儀明治十四年五月三日由利郡西目村善右衛門三孫男菅原久助カ白米五俵ヲ祖父善右衛門方ヨリ取出シタルト知リナカラ預ルト雖モ賊盜律盜賊窩主條盜贓タルヲ知テ寄藏スル者ニ擬スヘキニ非サルヲ以テ無罪

但シ預リタル米ハ取上ケ事主ニ還給ス

秋田縣九等警部中司耕輔ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月二十六日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣ハ左ノ如シ

常陸千代六ノ罪ハ賊盜律盜賊窩主條例中其盜贓ヲ知テ故ラニ買フ者ハ買フ所ノ者ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論シ知テ爲ノ寄藏スル者ハ故ラニ買フ者ニ一等ヲ減ストアルニ擬シ處斷スルヲ相當ナリトス然ルヲ本莊區裁判所ニ於テハ茲ニ出テス只故買シタル石塚長太郎ノミヲ擬シ寄藏シタル常陸千代六ハ無罪ノ申渡ヲナシタルハ甚タ其權衡ヲ得ス若シヤ盜賊窩主條例ニ擬スヘキ者ニ非ストスレハ雜犯律不應爲條例ニ問擬スヘキモノトス然ルヲ何レニモ問擬セズ無罪ノ申渡ヲナシタルハ不當ノ裁判ト認定ス

辨明

子弟私擅用財ノ罪ハ七贓罪ト全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ七贓例圖ニ依リテ其刑ヲ定メズ特ニ二十兩ニ答ニ二十一兩毎ニ一等ヲ加フ云々ノ法律アリ又私擅ニ父兄若クハ尊長ノ財物ヲ外ニ搬出スルモ未ダ費用セサレハ其罪成立セサルナリ從テ外人ノ之ヲ寄藏スル者ヲ盜賊窩主律ノ盜贓タルヲ知テ爲メ寄藏スル者ヲ以テ論スルヲ得ス况ヤ寄藏セシ財物

其場ニ現存スルニ當テ子弟卑幼ノ罪未ダ成立セサルニ因リ寄藏者ヲ以テ又其刑ヲ科スヘキ原由ナキモノナリ故ニ原裁判所ノ裁判ハ違法ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月二十四日弘前裁判所管内本莊區裁判所ニ於テ常陸千代六ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第八百七十三號

○判文(詐欺未得財ノ件) 明治十四年六月九日上告
明治十四年六月廿七日判決

福岡縣筑前國席田郡雀居村

平民

内田惣次郎

明治十四年五月
三十七年八月月

明治十四年五月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ右惣次郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀日下部平太家出中同人ノ弟日下部武平カ其家事ヲ擔當セシ處平太ノ負債相嵩ミ到底身代限りノ處分ヲ受クルニ付此際ニ乘シ程能申欺キ平太所有ノ田地林地等ヲ詐取セント存シ平太ノ財産ヲ保護スル爲メ該地所ノ地券ヲ自己ノ名前ニ改メ置カハ他日身代限りノ節公賣ヲ免ル、旨武平ヲ欺キ賣買ノ名義ニテ右ノ地券ヲ改メ換ヘシ後平太モ立歸リ之ヲ承知シ爾後平太ハ果シテ身代限りノ處分ヲ受クルモ右ノ地所ハ公賣ヲ免レ之カ返證ヲ求ムレハ肯テ與ヘス而後武平ヨリ平太ヘ貸金ノ代リ該林地ノ松木ヲ貰ヒ請ケ

入札拂ヒヲ爲スニ付若シ彼レヨリ告訴セハ詐欺ノ所爲發露セント思量シ自己カ所有地ノ
 松木ヲ盜伐サレシ旨不實ノ告訴ヲ爲ス等二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ上ニ告クルニ
 詐ヲ實ヲ以テセサル科例第二百四十七條ニ照シ事情輕キ者ヲ以テ論シ懲役八十日申付ル
 但平太ノ田地林地ヲ詐取スル目的ニテ地券ノ名前ヲ改ムト雖モ平太ニ於テ耕作シ賃租
 其他平太ニ於テ擔當シ所有ノ權未タ移ラサルヲ以テ詐欺シテ未得財者ヲ以テ論シ竊盜
 未得財條ニ依リ懲役四十日輕キヲ以テ論セズ詐欺シテ名前ヲ改メシ地券證ハ取上ル
 内田惣次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月九日付ヲ以テ本院ニ上告ノ旨
 趣左ノ如シ

一惣次郎儀明治十年九月筑前國那珂郡東光寺村平民日下部爲七日下部平太日下部武平右
 三名ヨリ三名トモ 依頼致スニハ席田郡雀居村平民藤野惣四郎ナル者仕立講金五拾八圓取
 當リ候ニ付右講敷抵當トシテ田九畝歩餘ノ地券證并畑林廿四歩ノ地券證貳枚ヲ講世話人
 自分ト藤野久作手元ニ其節差入居申候然ル處其後覺ナリ日下部平太ヨリ申向ルニハ拙者
 儀他人ヨリ借金有之居候處出訴ニ及ハシテトモ何分調金出來不致候ニ付身代限リ差出
 濟方致ス合ニ付兼テ久作并自分處ニ講敷抵當ニ地券證貳枚差入置タル分ヲ以前ノ通拙者
 名前ニ致置テハ他日公賣ニ相成儀ニ付自分名前ニ改メ換テ願出吳候様平太ヨリ依頼ニ及
 申候尤該田地耕作ハ平太致ス約定ニ有之タル處其後同人弟武平ナル者耕作致シ右ノ作徳
 米ヲ以テ講取當リ跡掛續シ約定ニ有之候然ルニ地券證名前換ハ自分モ相好ハ事ニハ無之
 候得共同人ヨリ頻リニ依頼致スノミナラス自分モ講世話人ノ事ニ付該田地林地共他人ノ

所有物ト相成候テハ先々講金掛續モ如何哉ト相考候ニ付依頼ニ應シ承諾致シ申候勿論地
 券名前換ニ付テハ村役人奥印ヲモ申受ケテ手數ヲ盡シ相願タル事ニ有之候尤明治十年ヨリ
 向二十年迄ニテ該講モ満座ニ相成儀ニ付向二十年迄ハ該地券證貳枚ハ自分ニ預置キ向二
 十一年ニ至リ平太ニ返却ノ約定致置申候右ノ情實ニ付テハ年限中ハ該林地ノ竹木壹本モ
 伐間敷旨ヲモ堅約定致置候處豈ニ圖ラシヤ昨十三年三月中日下部武平儀該林地ノ松木五
 本ヲ自分ニ相談モ不致伐取候ニ付相答メタル處兄平太ヨリ松木五本ヲ貰ヒ受ケタル旨ヲ
 申向ケ候條該林地ニ於テハ前條ノ通り講敷抵當ニ差入ニ相成儀ニ有之間自儘ニ伐木相成
 間敷旨ヲ申向ケ候加之ニ講掛金モ是迄幾度モ掛出シ無之ニ付テハ自分ヨリ取替講座毎ニ
 掛出シ居ル事ニ付大ニ迷惑致シ居ル儀ニ付其旨ヲ精々武平ニ相迫ルト雖右事實ヲ承知シ
 ナカラ事ヲ左右ニ申張スルニ付不得止本年四月福岡警察署ニ右武平ヲ被告ニ取り告訴致
 タル處右松木買取主筑前國那珂郡比惠村大島久助同國同郡東光寺村日下部喜七同國席田
 郡雀居村高原伊作外貳名ノ者共日下部武平ト詐事致シ自分モ右松木賣拂ノ儀初發ヨリ承
 知致シタル趣ニ申合警察署ニ上申致タルニ付本年五月十八日ヨリ入獄御申付ニ相成申候
 右松木賣拂ノ儀聊モ承知致タル儀ニ無之候ニ付告訴仕タル儀ニ有之候然ルニ入獄中御吟
 味ニ付御召喚ニ相成節探偵方筑前國博多馬場新町山口屋善吉ナル者自分ニ密々申聞ニハ
 右松木賣拂ノ事實ヲ承知致タリ旨ヲ上申致ナラハ右告訴ノ事件ハ速ニ相片付儀ニ有之候
 間承知致シタル旨ヲ上申致シ候様相進メ候ニ付自分ニ於テモ事ノ急務仕ルヲ相好ムコトニ
 有之殊更同人モ深切ノ説諭ト相心得有松木賣拂ノ根原ハ更ニ知ラサル事ナカラ誤解仕リ

ヲ承知致タル旨上申仕候ニ付口供摺印仕今日ニ至リ切齒遺憾ニ難堪儀ニ有之候
一 本年五月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ別紙ノ通略之 御處刑宣告ヲ受テ候處實
ニ雲泥ノ反對ニ有之候且名前換ノ地券證此節御取上ケニ相成趣御申渡ニ有之候得共右御
取上ケニ相成候テハ該講此先平太ヨリ掛戻シ金凡四拾圓モ有之候ヲ全ク自分ヨリ辨償不
致テハ講連中承諾モ致間敷其上向明治二十年迄講金掛ケ戻シノ目的ヲ取失ヒ大ニ難澁仕
儀ニ有之候條前陳約定ノ次第モ有之儀ニ付該地券證ハ御下渡被爲下候様奉願候今般御處
斷ノ廉々甚ク服シ得サル儀ニ候條謹テ奉上告候條御仁恤ノ御公判ヲ奉仰候也

辨明

原裁判所ノ該件書類ヲ閱スルニ内田惣次郎ニ於テ日下部平太ノ田地林地ヲ詐取スルノ念
慮ヨリ地券ノ名前ヲ改ムルト雖モ唯所有權ヲ移シタルノミニテ未ダ其物件ヲ得タルニ非
ラサレハ該欺未得財ヲ以テ論スヘキ罪ナリトス又日下部武平カ兄平太ノ所有地ノ松木ヲ
賃受ケ入札拂ヒヲ爲スノ際惣次郎ニ於テ右武平カ惣次郎所有ノ松木ヲ盜伐セシト福岡警
察署ヘ不實ノ告訴ヲ爲セシハ單ニ該地ヲ詐取セントスルノ手續ニ屬シ別ニ人ヲ罪ニ陷シ
入ントスルノ旨趣ニ出テサルヲ以テ不應爲ノ罪ナリトス仍テ二罪俱發以重論條ニ依リ處
分スヘキヲ相當ナリトス然ルニ原裁判所ノ裁判玆ニ出テス例第二百四十七條ニ照シ處斷
セシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ内田惣次郎ヘ言渡

シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

内田惣次郎

右ハ前ニ辨明スルカ如クナルニ因リ一ノ重キ不應爲ノ罪

懲役七十日

但該地券證ハ取上ル

第八百七十四號

○判文(煙草稅則違反ノ件)明治十四年六月三日上告
明治十四年六月廿七日判決

長崎縣長崎區築町廿四番戶

平民

西川大作

明治十四年四月
二十四年六ヶ月

明治十四年五月三十日長崎裁判所ニ於テ右大作ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年四月六日自用人ノ購求ニ宛タル製造煙草ニ印紙貼用セス店頭ニ展示シ
タルハ明治十年第十四號布告及ヒ明治十年大藏省甲第三十四號布達ニ觸レルト雖モ之ヲ
罰スル明文無之ニ付罪ノ問フ可キナシ

長崎裁判所檢事補鶴田實ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月三日附テ以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送付シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ
抑モ本職カ該犯ノ刑ヲ求メシハ改定律例第九十九條凡ソ律例ニ罪名ナク令ニ制禁アリ及

ヒ制禁ナキ者云々不應爲違令違式ヲ以テ論スルトアル法例ニ違ヒシ者ナリ而シテ本犯カ
犯セシ前顯明治十年ノ公布ニハ爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致
シ置クヘントアリテ明カニ其貼用ヲ命令シ置キタルモノナレハ之レヲ犯セハ即チ律例第
九十九條ニ依リ以テ其刑ヲ適用スヘキ者ニテ之ヲ奈何ソ罰ノ明文ナシト云テ得ン夫ノ賣
出セシモノト賣出サ、ルモノトノ科罰宜シキヲ得サル如キハ執法官ノ固ヨリ左右スヘカ
ラサルモノナルニ長崎裁判所ハ漫ニ其權衡如何ヲ論シ遂ニ明文アル所犯ヲ明文ナキモノ
ト誤認シ斯ク無罪ノ裁判ヲナシタルヨリ本職ハ不得止該裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

明治十年第十四號布告ニ製造煙草ノ儀ハ自用ノ人へ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候
處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可置云々トアリ今上告ニ付
原裁判所ノ簿冊ヲ閱スルニ被告人西川大作ハ自用ノ購求ニ宛テ店頭ニ展示スル製造煙
草ニ相當ノ印紙ヲ貼用セサリシ者ナレハ乃チ該布告ニ違反シタル者ナリ故ニ大作カ罪ヲ
斷スルハ雜律違令條令ニ違フ輕キ者ニ擬シ懲役三十日贖ヲ聽スヘキ者トス然ルチ原裁
判所ノ裁判玆ニ出ス徒タニ罰スヘキ成文アラストシ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ノ裁
判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月三十日長崎裁判所ニ於テ西川大作ニ言渡シタル裁判ヲ
平翻スルヲ左ノ如シ

西川 大作

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜律違令條ニ依リ懲役三十日贖ヲ聽ス

贖罪金貳圓貳拾五錢

第八百七十五號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年六月三日上告
明治十四年六月廿七日判決

開拓使渡島國津輕郡福山西

館町四十二番地平民

西村 覺次郎

明治十四年五月
二十二年十月月

明治十四年五月廿八日函館裁判所ニ於テ右覺次郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年四月廿五日ノ夜渡島國津輕郡福山西向町川合金藏宅ニ忍入リ紙幣物品
ノ藏メアル視箱壹箇ト紙幣六圓四十錢ヲ竊取シ戶外ニ立出ントスルノ際宅内ノ障子ニ撞
觸シ事主ノ爲メニ聲掛ケラレタルニ駭キ視箱ハ直チニ其場ニ放棄シ逃走シタルニ因リ該
品ハ未得チ以テ論スト雖モ逃走ノ際携帶セル六圓四拾錢ノ贓未得ノ罪ヨリ重キヲ以テ賊
盜律竊盜條ニ依リ懲役六十日申付ル

函館裁判所檢事高山一祥ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月三日附テ以テ司
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右者明治十四年四月廿五日夜同所寅向町川合金藏宅ニ忍入金圓盜取當時誰何セラレタル

ニ愕キ逃走ノ際已ニ外人ニ扼セラレ終ニ事主ノ面前ニ至リ首服セシハ本人口供ノ如ク羞
 惡改竄ノ情狀自ラ徴スルニ足レリ仍テ其適用ヲ求メタルニ明治十四年五月廿八日函館裁
 判所ニ於テ賊盜律竊盜條ニ依リ懲役六十日處刑言渡シタルハ即法律適用ヲ失シ且贓物追
 徴ノ處分穩當ナラサルヲ認ム抑現今自首法ノ如キハ專ラ道德上ニ繫リ若シ罪ヲ犯ス者ア
 ルモ人命放火等ノ賠償スル能ハサル者ヲ除ク外未ダ官ニ發セサルニ自首スルモノ云々原
 則ニ憑テ視ルキハ素ヨリ其罪ヲ聽サ、ルヲ得サルハ法律適用ナリト信ス去迎覺次郎カ所
 爲準現行ニ係ルヲ以テ自首ノ限ニ非ルノ景況アリト雖トモ現行非現行ノ區別ニ隨ヒ減免
 ナ與フヘキ哉否定メタル法律アルニ非ルハ勿論ナリ殊ニ事主川合金藏ニ於テハ其返還ヲ
 聽容シ而シテ警察署ニ訴ヘタルハ則屆書ニシテ告訴發ノ要旨ニ非サルハ同人始末書ニ
 徴シ亮然タリ但首服ノ事由私ニ聽許シ官ニ告ケサルニ於テハ金藏モ亦法律牴觸ヲ憚リ將
 ニ届ケ出タルモノ、如シ若シ夫レ自首ヲ聽サ、ルモノトスルキハ乃本罪ハ贓罪ニ係ルヲ
 以テ其金帛ヲ追シ本主ニ給還スルハ法理當然ナリトス將タ覺次郎カ罪科口供ノ如ク一次
 中何品カハ存セサレトモ持出シ見可申ト徒ニ試ミタルニ止リ未タ盜取ルヘキ情由ノ決セ
 サル内誰何セラル、ヲ以テ投棄セシ云々蓋盜得ト否トノ境裁判官腦證ニ任シ若シ盜得者
 トスルキハ則贓計多少ニ應シ其罪ヲ擬スルニ止リ一次ノ竊盜焉ソニ科ノ罪名ヲ擬スル
 ナ得ン平是ニ由テ之ヲ觀レハ被告ハ外人ニ扼セラレ事主ノ許ニ至ルモ已ムニ得サルニ似
 タリト雖モ未タ質問ヲ請ケ速ニ姓名ヲ告ケ及ヒ盜得金懷中ヨリ差出シ返還セシハ自首
 ナリテ論擬スルニ法律ノ適用ト信認ス然ルニ賊盜律竊盜條及ヒ二罪俱發例ニ照シ其罪ヲ

問擬シ剩贓物紛沒律ニ依ラス處刑言渡シタルハ不當ノ裁判ト思量ス故ニ破毀ヲ求ムル所
 以ナリ仍テ一件書類取纏ノ上告致候也

辨明

被告西村覺次郎カ明治十四年四月二十五日ノ夜福山寅向町川合金藏宅へ忍ヒ入り金圓其
 他物品ヲ竊取ノ際家内ノ者ニ覺知サレ狼狽ノ餘リ竊盜セシ物品ノミ其場へ拋棄シ金圓ハ
 携帶シ逃走ノ途中捕押ヘラレ事主ノ許ニ至リ姓名ヲ告ケ直ニ贓金悉皆返還スト雖モ勢ヒ
 止ヲ得サルニ出テ其贓金ヲ返還セシモノナレハ事主ノ處ニ於テ首服セシモノニ非サルナ
 リ然レトモ原裁判所カ該犯一次ノ竊盜ヲ二科ノ罪名ニ擬シ二罪俱發以重論條ニ照シ處斷
 セシハ不法ナリト雖モ本刑ヲ竊盜條ニ問擬シ懲役六十日ト言渡シタルハ適當ナルヲ以テ
 破毀ノ限リニ在ラス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月廿八日函館裁判所ニ於テ西村覺次郎ニ言渡シタル裁判
 ハ破毀ノ限リニ在ラストス

第八百七十六號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年六月九日上告
 明治十四年六月廿七日判決

大分縣豐後國大分郡鶴崎町

士族

中子 圓 夫

明治十四年六月
十五年十月月

右圓夫カ所爲ニ對シ明治十四年六月六日熊本裁判所大分支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
 其方儀竊盜一件逐審問處裁ニ大分縣四等巡查奉職中明治十四年五月十八日同郡大分町平
 民時計職辻重平方ニ於テ同勤内尾平太郎カ銀側懷中時計壹個竊取スルヲ撞見シタルモ同
 勤ノコナレハ其儘着通シ置キタル末該時計自分止宿所ニ有之ヨリ終ニ嫌疑ヲ受ケ取調中
 右平太郎ヨリ只管倚頼モ有之且ツ糾問掛リニ於テモ該時計ノ自分カ止宿所ニ有之カラハ
 盜取タルニ相違無カルヘシト訊問セラレ其答辨ノ辭ナキヨリ不圖盜取タル旨供出シタル
 モ其實平太郎カ盜取タルモノコテ自分ノ所業ニ非ラサル旨申立ルト雖モ固ヨリ其方於テ
 盜取ラサルモノナレハ右糾問掛ニ於テ訊問ノ際職ク盜取タルト供出ス可キノ理由ナク又
 假令同勤ノ依頼ヲ受ケタレハトテ自カラ爲サ、ル盜罪ノ事實ヲ吐出セラル可キノ理由ア
 ラサルカラハ全ク其方カ糾問掛ニ於テ申立摺印ヲ成シタル口供ハ方ニ之レ眞實ノ白狀ニ
 シテ該時計壹個ハ其方於テ盜取タルコト明白ナリ因テ右時計壹個ヲ盜取ル罪金六圓五拾錢
 ノ科賊盜律竊盜條ニ依リ罪金壹圓以上懲役六十日身士族ナルニ付改定律例改正第十三條
 ニ照ラシ除族ノ上懲役六十日申付ル

其方儀盜取リ所持スル時計壹個ハ給没贓物條ニ依リ追徴ス

中子圓夫ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

一 嚮キニ大分縣四等巡查奉職中自分所持スル壹個ノ懷中時計同勤高見彌平太郎ナル者所望
 及ハレ候ニ付同人ニ讓リ與ヘ可申契約ヲナシ則チ彌平太郎ニ讓リ與ヘ候事

一 明治十四年五月十八日最高見彌平太郎ニ讓リ與ヘ懷中時計損シノ今所有之ニ付元購求
 セシ時計職大分町辻重平方ニ持越シ外時計ニ交換ナサント彌平太郎ニ自分重平方ニ立越
 シ候際同勤内尾平太郎ナル者モ自分共ニ隨行シ右重平方ニ立越シ候事
 一 明治十四年第五月十八日高見彌平太郎及ヒ内尾平太郎自分ノ三名重平方ニ立越シ彌平太
 ヲリ懷中時計購求致シ度ニ付時計見得爲致吳レ候様申聞ケ候ノ處則チ重平壹個ノ時計ヲ
 差出シ候事

一 其際自分前件ノ時計ヲ手ニ取り見得終リテ外ニ時計ノ小形ヲ見セ吳レ候様申聞ケ候處
 重平ニ於テ凡七品計リ箱ニ入レ自分共前ニ差出シ候事
 一 右七品ノ懷中時計ヲ彌平太郎ニ於テ夫々見得シ右七品ノ内ヨリ壹個同人氣入ノ時計ヲ撰
 ビ出シ候ニ付自分重平ノ居席ニ立越シ直段極メヲ致シ候處到底拾圓代價ニ賣買ノ契約相
 整ヒ然ルニ最前自分彌平太郎ニ相讓リシ時計ハ重平方ニテ拾壹圓五拾錢金ニ購求セシ品ナ
 ルニ付右時計ヲ重平方ニ賣戻シ差引計算ナスニ壹圓五拾錢ノ過金有之候モ自分ヨリ重平
 ニ外ニ自分所持ノ古時計交換モ可致ニ付該過金ハ預ケ置クヘキヲ申聞ケ置キ候事
 一 前件懷中時計重平ニ持出サセ見得ナス中初メ差出シ候壹個ノ時計隨行セシ内尾平太郎
 ニ於テ見得ナス体ニテ竊カニ同人懷中シ竊取致シ候ヲ自分確ト相見認メ候ニ付直チニ平
 太郎ニ對シ竊取ノ廉自分ヨリ質問及フヘシモ其際重平方ニ多人數出入致シ居候者モ有之
 ニ付同席ニ於テ質問及ヒ候ハ、平太郎モ赤面可致ト態ト其席ヲ遁シ後シテ同人ニ申聞ケ
 内々重平方ニ可差返自分ノ了簡ニテ其儘措キ候事

一高見彌平太ニ於テ壹個ノ時計ヲ購求セシニ付該時計ヲ五月十八日午後六時頃迄琢キテ
頼ミ重平方ヘ措キ被引取候ニ付自分モ亦預ケ金壹圓五拾錢ノ爲メ再ヒ立越スヘキヲ申聞
ケ同家ヲ三名一同被引取候事

一右同道ニテ重平方ヲ立去リ直チニ内尾平太郎ヘ前件竊取ノ廉質問及フヘクノ處同人義
重平方ヲ家出シ獨リ横町ヘ行越シ候ニ付後日面會ノ節篤ト尋問及フヘクト又候其節見遣
シ候事

一其後自分共ハ合宿所ヘ引取候處折節郷里ヨリ尾崎吉次ト申朋友自分ヲ訪ラヒ來リ候ニ
付同人ヲ召連レ大分町中ヲ散步シ同日午後六時ノ頃重平方ヘ自分立寄り先キニ預金壹圓
五拾錢ノ爲メニ懷中時計ヘ附屬シタル紐輪ヲ購求シ合宿所ヘ立歸リ候事

一追々右吉次ナル者ト町中ヲ散步シ五月十八日夜十時頃合宿所ヘ引取候處辻重平來合候
ニ付何故被見候ヤヲ相尋候處大分町字天神町邊迄罷越シ歸途鳥渡御伺申上候迄ノ義ヲ重
平ヨリ被申出其儘同人歸宅被致候事

一其後自分所持ノ古時計ヲ重平方ヘ持行キ鑑定依頼及ヒ候處最早夜モ深更ニ相成候ニ付
明日立越シ吳レ候様申聞ルニ付其儘引取候事

一明治十四年五月十九日大分縣警察本署ニ於テ辻重平方懷中時計紛失ノ始末自分ヘ御尋
問御座候ニ付前件ノ始末奉上申候得共内尾平太郎竊取ノ廉ハ可相成丈ケ内々致シ置キ平
太郎ヘ異見ヲ加ヘ重平方ヘ可差返ト存シ本署ニ於テ尋問ノ際奉上申ヘクモ了簡致シ遣
候事

一右本署ニ於テ尋問中有紛失ノ時計自分合宿所ヘ有之趣キヲ以テ嚴重御尋問ヲ蒙リ何分
申披キ難相立場合ニ至リ遂ニ自分竊盜ナシタル旨奉上申候モ其實ハ至ク平太郎ニ於テ竊
取ナシタル義ニ御座候事

一右大分縣警察本署ニ於テ御尋問中自分拘留所ヘ御止置相成候處内尾平太郎義モ御拘置
相成拘留所ニ於テ一間ヲ隔テ各拘置相成居ニ付平太郎ヨリ自分ヘ聲ヲ掛ケ右時計竊取ノ
義ニ付罪ヲ覆ヒ吳レ候段重々同人ニ於テ難有旨ヲ申出且ツハ入檻中不自由ノ儀モ有之候
ハ、同人ヨリ兼テ不自由等無之様精々盡力可致ニ付萬事依頼ノ旨ヲ申出候ニ付之レ則チ
事實ノ證據ト存シ附キ内尾平太郎ニ於テ高見彌平太一同重平方ヘ立越シタルノ節先キニ
見得セシ一個ノ時計内尾平太郎竊取シ拘置所ニ於テ自分ヘ依頼被及タル一件警察本署ヘ
具申シ自分竊取ノ覺ヘナキヲ奉上申候處追々本署ニ於テ御審理ノ末熊本裁判所大分支廳
糾問掛リヘ御差廻シ相成候事

一其後熊本裁判所大分支廳ニ於テ糾問掛リヨリ前件懷中時計竊取一件審問ヲ蒙リ候ニ付
追々前條ノ始末奉上申候得共到底該所ニ於テ内尾平太郎竊取ナシタルトノ義ハ却テ自分
ヨリ同人ヘ竊取ノ罪ヲ申掛ケルノ場合ニ至リ先キニ平太郎ヲ看過シタル後チ警察本署ニ
於テ竊取シタル段自分ノ白狀及ヒ候上ハ事實ノ申分ハ皆虛ニシテ自分竊取シタルニ立至
リ遂ニ同所ノ口書ヘ摺印仕候モ至ク其事實平太郎ニ於テ竊取シ自分ハ之レヲ見認メ其際
看過シ候ニ相違無御座候事
右ノ通り聊カ事實ニ於テ相違無御座候處大分縣警察本署ヨリ熊本裁判所大分支廳ニ於テ

追々自分御審問ヲ相蒙リ候モ事實ニ於テハ御探聽ナク賊盜律竊盜條ニ依リ除族ノ上懲役六十日ノ御處刑ヲ自分獨リ相蒙リ候儀ハ誠ニ不當ノ裁判ト奉思考候ニ付此段上告仕候條依テ前裁判御破毀被成下度候也

辨明

原裁判所ニ於テ上告人中子圓夫カ所爲ニ對シ贓金壹圓以上賊盜律竊盜條ニ依リ士族ナルルヲ以テ改定律例第十三條改正ニ照シ除族ノ上懲役六十日ノ處斷爲シタリ上告人ニ於テハ内尾平太郎カ竊取セシヲ見遁シタルニテ盜ニ取シニアラス熊本裁判所大分支廳糺問掛ニ於テ審問ノ際遁ル、ニ辨解ノ道ナク不實ノ口供ニ摺印セシト供述スルナレハ内尾平太郎カ盜ニ取タルノ證據立チ爲スヘキニ其證據ヲ舉ル能ハサルヲ以テ觀レハ糺問掛ニテ審問ヲ受ケ爲シタル口供ヲ眞實ノ白狀ナリト原裁判所ニ於テ認定シ處斷ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ニアラスト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月六日熊本裁判所大分支廳ニ於テ中子圓夫ヘ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第八百七十七號

○判文(賣藥規則違反ノ件) 明治十四年五月三十一日上告 明治十四年六月廿八日判決

宮城縣陸前國志太郡稻葉村

平民儀藏姪

熊本三十一郎

明治十四年五月

二十八年九月

五月

明治十四年五月二十六日仙臺裁判所管内古川區裁判所ニ於テ右三十郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シ

タリ

其方儀會テ止宿セル相馬民二郎ヨリ貰ヒ受ケタル賣藥馬龍丸ヲ私ニ販賣セントノ意匠ヨリ古版本ニテ自造シタル小高神ノ守札配當ヲ名トシ右馬龍丸ヲ無鑑札ニテ行商シタル科賣藥規則第三章第二十條ニ依リ罰金五圓申付ル

宮城縣八等警部永田穂澄ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月三十一日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣ハ左ノ如シ

抑該犯三十郎カ生國住所トモ知ラサル相馬民三郎ヲ止宿爲致同人出立ノ際ニ臨ミ永々世話相受ケタル由ヲ以テ所持ノ大黒天ノ札小高神並馬龍丸包紙等ノ各版本及丸劑共貰受ケ是レヲ販賣スレハ必ス利徳ヲ得ルコトノ傳授ヲ受ケタルヨリ連類ヲ需メ當時行衛知レサル清水森治ト相謀リ各貧囊ノ一助ニ爲サント思量シ其貰受ケタル小高神ノ版本ヲ以テ守札ヲ偽造シ及ヒ大黒天ノ札ヲ携持シ人家ニ立入先ツ其守札ヲ施シ是レヲ媒介トシテ功驗具否ヲ辨知セサル馬龍丸ヲ街賣スル其意匠ヲ問フハ無鑑札ナル賣藥ヲ買ハチハ成ラサル様手段ヲ違フシ諸人ヲ誑惑セシメ多少ノ米金ヲ欺キ取タルモノニアラスヤ果シテ然ラハ名例律二罪俱發條ニ照シ小高神ノ守札ヲ偽造シ及ヒ大黒天ノ札ヲ以テ諸人ヲ誑惑セシメ財ヲ貪リタルハ則チ賊盜律詐欺取財條ニ依リ得ル所ノ米金ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ進シテ論シ

贓金壹圓以上懲役六十日仍ホ馬龍丸ヲ無鑑札ニテ行商販賣シタルハ蓋シ賣藥規則第三章第二十條ニヨリ併科スヘキモノト信認セリ然ルヲ法官ハ該犯カ小高神ノ守札ヲ偽造シ及ヒ大黒天ノ札ヲ以テ配當施與スル等ノ詐術ヲ行ヒタルハ何等のノモノト誤認セシヤ之レヲ不問ニ措キ之レヲ處スルニ單ニ其無鑑札而已ヲ罰科スルノ斷案ヲ下セシハ只管該犯カ供述スル處ノ意匠ニ反シ其罪蹟ノ要點ヲ審明セサル違法ノ裁判ト謂ハサルヲ得サルモノトス

辨明

被告事件ヲ審案スルニ熊本三十郎ハ相馬民二郎ナル者ヨリ馬龍丸ノ藥法及ヒ丸劑ヲ授與セラレ且小高神大黒天ノ守札等ノ版本ヲ貰受ケタルニ因リ自テ藥劑ヲ調製シ並ニ小高神大黒天ノ守札ヲ偽造シ以テ馬龍丸販賣ノ媒介ト爲シ諸方ニ行商シタルモノニシテ其守札ヲ配付シテ金錢ヲ受ケタルニ非サルノミナラス守札ノ配付ニヨリ馬龍丸ヲ買取スルト否トハ各人ノ隨意ニ任スモノナレハ詐欺取財ヲ以テ論スルヲ得ス其所爲不應爲條ニ問擬ス可キモノナリ又被告人ハ賣藥營業ヲ鑑札ヲ受ケスシテ私ニ馬龍丸ヲ調製販賣セシ者ニシテ他人ノ賣藥ヲ行商スルニ非サレハ單ニ行商ノ規則ニ違犯スル者ト爲スヲ得ス其所爲賣藥規則第二十三條ニ無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘキトアルニ依リ處斷ス可キモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ無鑑札ニテ行商スル者ニ擬シ規則第二十條ニ依リ處斷シ其守札偽造配付ノ罪ヲ問ハサルハ共ニ違法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十四年五月二十六日仙臺裁判所管内古川區裁判所ニ於テ熊本三十郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

熊本三十郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雖犯律不應爲條ニ依リ懲役三十日贖ヲ聽シ仍ホ賣藥規則第二十三條ニ依リ罰金ヲ併科シ

贖罪金貳圓貳拾五錢

罰金貳拾五圓

但現在スル守札藥劑並ニ其版本及ヒ賣得金ハ沒收ス

第八百七十八號

○判文(馬醫ノ件)明治十四年五月三十日上告
明治十四年六月廿八日判決

岩手縣陸中國西磐井郡上黒

澤村平民

菅原シウ

明治十四年五月
三十八年一ヶ月

明治十四年五月二十三日仙臺裁判所盛岡支廳管内磐井區裁判所ニ於テ右「シウ」ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀船山清吉ヲ馬ル科馬醫律馬人條ニ依リ懲役一十日婦女ナルヲ以テ名例律婦女犯罪

條ニ照シ收購金貳拾五錢申付ル

岩手縣警部代理一等巡查千葉美胤ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月三十日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

本訴ノ一件書類ニ據ルニ菅原「シウ」ハ船山清吉ヲ罵詈シタルハ明白ナリト雖モ其發覺シタルハ豫審中詰問ニ依リ清吉ニ於テ罵シラレタルヲ陳述シタルモノニテ告訴シタルモノニアラサルナリ磐井區裁判所ニ於テ依據シタル罵詈律第一項ハ告訴ヲ待チ乃チ坐スル明文ナキト雖モ蓋シ罵詈ハ其損害傍人ニ及ハサルヲ以テ傍人ヨリ告クルモノニアラサルナリ只其損害ハ罵ラレハモノ一人ニ止マルモノナレハ被害者ノ告訴ヲ待チ乃チ坐スル律意ナラン果シテ然ラハタトヒ豫審中被害者ニ於テ罵詈セラレタルヲ陳述スルモ罵ルモノヲ告訴セズンハ罪ニ入ルハヘカラサルナリ何ントナレハ姦夫本夫ヲ罵リ本夫之レヲ告ケ其罵詈ハ姦事ニ源因スル明白ナリト雖モ本夫姦罪ヲ告訴セズンハ單ニ罵詈ノミチ科シ姦罪ハ問ハサルナリ然ルチ本裁判ノ如キ被害者棄權シ告訴セサル罵詈罪ヲ菅原「シウ」ニ科シタルハ不當ノ斷決ト考量ス依之書類相添此段上告候也

辨明

菅原「シウ」カ犯罪ノ事件ニ就キ被害者ハ告訴ヲ爲サスト雖モ本案ハ及川武右衛門並船山清吉ノ犯罪ニ附帶シテ起リタルモノナリ因テ明治十一年司法省丙第四號達自今訟廷内ノ犯罪及ヒ審問上ヨリ發覺スル本件附帶ノ犯罪ヲ除クノ外ハ檢事ノ告訴ニ因リ云々トアルヲ觀レハ本案ノ事件ニ對シ裁判ヲ爲セシハ敢テ不當トナスヲ得ス

罵詈律罵人條ニ被害者ノ告訴ヲ待テ乃チ坐スルトノ法文ナク改定律例第二百三十六條次項ニモ亦之ヲ載セス左スレハ凡人罵詈ニ於テ被害人カ告訴セサル時ハ受理セサル者ト論斷スルヲ得ヘカラサル事明瞭ナリ因テ「シウ」カ船山清吉ヲ罵詈セシ罪ヲ問ヒタルハ不適法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルチ以テ明治十四年五月二十三日原裁判所ニ於テ被告菅原「シウ」ニ言渡シタル裁判ハ破毀スルノ理由ナキモノ也

第八百七十九號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年六月十日上告 明治十四年六月廿八日判決

京都府三條大橋町平民孫七
長女當時大阪府西成郡難波
村寄留

山 田 ハ ル
明治十四年六月
三十一年五月

明治十四年六月二日大阪裁判所ニ於テ右「ハル」ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀竊盜事件公訴ニ依リ審問途クル處檢事ニ於テハ被告人ノ口供ヲ以テ罪證ヲ證明セリ
被告山田「ハル」於テハ明治十四年三月十三日以來府下館屋町其節姓名知ラサル野里彌兵

衛其他三ヶ所へ田中「ムメ」俱々忍入り竊盜セシテ相違ナキ旨警察署ニ於テ口供及ヒ拇印
セシモ全ク自分ハ田中「ムメ」俱々竊盜ナシタルヲ無之警察署ニテ口供セシハ田中「ムメ」
於テ何分自分ト共ニ竊盜セシ旨申立ルニ付不得已口供及ヒ拇印爲シタリ右ニ依リ決シテ
承知セサル旨供述ス

右ニ依ルニ被告山田「ハル」ハ田中「ムメ」ト俱ニ竊盜セシナク警察署ニ於テ口供及ヒ拇
印セシハ田中「ムメ」カ申立ニ依リ不得已口供セシ旨翻異スト雖モ田中「ムメ」カ口供及横
山「吉カ」既ニ警察署ニ於テ爲シタル供述ニ依レハ共犯者タルヲ明瞭ナリ依之警察署ニ於
テ先ニ爲シタル口供ハ眞實ノ自狀ト確認ス

右ニ依リ山田「ハル」ハ竊盜金貳拾七圓七拾壹錢而シテ明治十二年九月五日及ヒ明治十
三年九月巳ニ二次ノ竊盜ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ竊盜律三犯五拾圓以下ナルモノニ依
リ懲役十年申付ル

但贓品賠償ノ爲メ資力限取上ル

山田「ハル」ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年六月十日大審院ニ上告狀ヲ差出シ
尙明治十四年六月十七日上告追補書ヲ差出シタリ

上告狀

第一條

自分儀ハ兼テ眼鏡商ニ有之爾來大阪府下難波村ニ寄留罷在候處竊盜犯ニテ再度御處刑ヲ
受ケ既ニ明治十三年八月九月ノ頃懲役六十日ノ期限滿放免ト相成則チ元ノ寄留所難波村ニ

歸リ候處田中「ムメ」ナル者ハ自分宅向ヒニテ惡意ニ有之候處該「ムメ」ナル者不都合ノ義
有之ヲ以テ該所ニ居住致シ難キヲ以テ北野村太融寺ト申所ニ移住致シ其後又々自分宅ニ
「ムメ」ナル者罷越申スニハ此ニ於テ爾來淫賣相稼キタル處客ニ指ヲ斬ラレタレハ本業髪
結職出來不致ニ付又當方ニ歸リ紙屑買致度ヲ以テ世話致吳度申入レタルヨリ同人ニハ兩
親モ子供一人有之ヲ以テ惘然ト存シ自分宅ニ引取り世話致シ居候中兩三度モ何ケ荷物持
歸リ候得共自分ハ大病ニ罹リ毛髮モ脱スル程ノ病ヒニ有之ハ更ニ何品ナルヤ不存候得共
該賣却ノ上少々金子モ調達ノ様子有之候事

第二條

明治十四年五月六日大阪府安堂寺町警察署探偵掛御出張ノ上御捕獲ニ相成同警察署ニ御
拘引相成候ニ付自分ハ決シテ御拘引相成候所以無之何故御拘引相成候ヤト御尋申シ上テ
ル處其方ハ田中「ムメ」共々大阪府下東區館屋町外三ヶ所ニ於テ行盜シタル段曲サニ申立
ツヘシト御申聞有之モ自分ニ於テハ更ニ其覺ヘ無之段具陳セシ處田中「ムメ」ヨリ逐一供
述セルヲ以テ有休申シ立ツヘク嚴命有之ニ付自分ニ於テ是迄再度處刑ヲ受タレハ御疑ヒ
ハ御尤ナルヘシ然レモ其初自分ハ大病ニ罹リ居レハ共謀行盜セシ理由ナシ田中「ムメ」ニ
於テハ何等ノ故ヲ以テ如斯キト上伸セルヤ第一條ニ具陳セル如ク該人ハ自分宅ニテ世話
致シタレハ如斯申上ヘキ理由ナシト申シ答候處理不盡ニ繩ニテ縛シ棒ニテ御打擲相成自
分ハ懐胎巳ニ五ヶ月ニ有之ヲ以テ苦痛ニ堪ヘ兼巳ニ命モ保チ難キ思ヒテ成シ困難罷在際
田中「ムメ」ニ出會候ニ付何故如斯キ無根ノ義申立候ヤト相責メタル處一時心得違ヨリ申

立タレハ種々申開キ候モ官ニ於テ御聞入ナケレハ一時摺印致シ置キ吳度其許ノ拷問ノ苛刻ナルヲ聞シニ堪ヘ兼ネタレハ裁判所ニ交付シ後申開キスヘシト申シタルニ付自分モ臆胎ニシテ苛刻ノ拷問ニ堪兼タルヨリ其意ニ從ヒ摺印候處裁判ニ御交付相成候事

第三條

裁判所ニ御交付ノ後前顯ノ始末由サニ具陳候處一應ハ御聞取有之タルモ更ニ御審理無之遂ニ裁判言渡シテ受候事

上告追補

警察署ニ於テ御讀聞ニ相成候口供ハ田中「ムメ」ノ仲供ニ依リタルモノニシテ決シテ自分ヨリ申供シタル口供ニ非ラス他人ノ仲供ニ掛ル口供ニ摺印セシハ拷問ノ苛刻ニ堪兼テタルヨリ摺印セシニ付該田中「ムメ」ヲ御取調有之候得ハ判然スヘシ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ取調ルニ上告人山田「ハル」カ田中「ムメ」ト俱々竊盜罪ヲ犯シタルハ「ハル」及ヒ「ムメ」カ明治十四年五月九日大阪安堂寺町警察署ニ於テ爲シタル口供ニ明白ナリ故ニ「ムメ」ト俱々竊盜罪ヲ犯シタルヲ無キ旨口供ヲ翻異スト雖モ右ハ無證據ノ申立ニシテ相立サル申分ナリトス故ニ原裁判所ニ於テ竊盜律ニ依リ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルコ因リ明治十四年六月二日大阪裁判所ニ於テ山田「ハル」ニ言渡タル裁判ハ破

毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者也

第八百八十號

○判文(賭博ノ件) 明治十四年六月廿二日上告 明治十四年六月廿八日判決

群馬縣上野國北甘樂郡上高
尾村平民與茂藏二男當時東
京鎮臺第三聯隊第三大隊豫
備軍編入勳八等

高見澤鶴松

明治十四年二月
二十四年四月

右鶴松カ所爲ニ對シ明治十四年二月二十六日熊谷裁判所前橋支廳管内高崎區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年十二月二日自村高橋「シマ」方於テ吉井吉五郎外三名申合セ財物ヲ賭ケ博藏ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日申付ル

大審院詰捨事岡本豐章ニ於テハ明治十四年六月二十二日附テ以テ期限外ノ上告爲シタル要旨左ノ如シ

本犯鶴松ハ明治十四年二月廿六日熊谷裁判所前橋支廳管内高崎區裁判所ニ於テ賭博ノ科ニヨリ懲役八十日之刑ニ處セラレタリ然ルニ賭博ノ罪タル破廉耻甚ニ係ラサルハ律例第十八條ニ明ナリ素ト本犯ハ勳位ヲ有スル者ニ付之ヲ犯セハ十族ニ準シテ論シ禁獄ニ處ス

ヘキ者トス然ルチ本犯ニ於テハ受斷ノ際勳位ヲ有スル旨ヲ申供セサルヨリ常人ト同シク懲役ノ刑ニ處セラレタリ右ハ裁判法律ニ違フモノト考量ス然レモ既ニ確定後ニ係ルチ以テ明治九年第八號公布ニ依リ期限外ノ破毀アラントテ求ム

辨明

被告人高見澤鶴松カ所爲ハ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日勳位ヲ有スルチ以テ改定律例第十三條改正士族罪ヲ犯ス者ニ準擬シ禁獄八十日ニ處斷スヘキモノナリ然ルチ原裁判所ニ於テ懲役八十日ノ實斷爲シタルハ該犯審問ノ際勳位アルチ申供セサルカ爲メナリト雖モ到底法律ニ違フノ裁判ナリト爲ス

判決

右ノ理由ナルチ以テ明治十四年二月二十六日熊谷裁判所前橋支廳管内高崎區裁判所ニ於テ高見澤鶴松ヘ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

高見澤鶴松

右ハ前ニ辨明スル如クナルコ因リ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日勳位ヲ有スルチ以テ改定律例第十三條改正ニ照シ士族ニ準擬シ

禁獄八十日

第八百八十一號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年五月三十一日上告
明治十四年六月廿九日判決

廣島縣安藝國山縣郡有田村

三百六十三番地平民

青木重兵衛

明治十四年四月
四十一年一ヶ月

右重兵衛カ所爲ニ對シ明治十四年五月二十三日廣島裁判所ニ於ヒテ左ノ裁判ヲ言ヒ渡シタリ

其方儀安宅「マサ」ヨリ告訴及タル宅地建家賣買一件ニ對シ己レノ所爲ハ無罪ナリト辨護スル爲メ糾問庭ニ於テ爲タル口供ニ依リ其宅地建家賣買ノ契約ヲ締結シタルヨリ后チ代價ヲ拂渡サスシテ遂ニ「マサ」ヨリ告訴及タル迄ノ事實ヲ審査スルコ首尾頗末相牴牾シ引合證人ノ供述ト悉ク齟齬シ一ツモ信ヲ措クニ足ラス尙ホ「マサ」カ牲川琢磨ト馴合ヒ証告ヲ爲シタル證トシテ琢磨ヨリ交附セシ證書ヲ提供スルモ是又琢磨カ一己ノ私書ニシテ證跡トスルニカラナシ到底汝カ辨護ノ要點ハ代價金百八拾圓ノ内拾圓ヲ手附金トシテ相渡シ殘金百七拾圓ハ通常預リ證書ヲ差入レ雙方承諾上ニ成立タル者ニシテ只代價受授ノ遷延ニ及タルノミ而シテ其遷延ニ及タルハ買受ノ宅地建家所有主ノ判然セサルヨリ起リタレハ却テ告訴人安宅「マサ」ニ於テ不都合ヲ醸セリト云フニ在リト雖モ代價百七拾圓ノ預リ證書タル明治十三年十月廿五日成立ニシテ拂渡期日ハ翌明治十三年十月廿六日ニ在レバ只代金拂渡ノ期日ヲ結了シタル意思ニ外ナラスシテ通常附托ノ金額ニ變更シタル者ニ非ス元來賣買ノ契約ニ必要ノ條件ハ代價ナルコ汝ハ明治十三年六月中負債ノ爲メ示談身代限ヲ爲シ未ダ配賦濟ニ至ラスシテ購求スヘキ資力ナキノミナラス自己ノ名義ヲ用ユル能

ハス故ラニ二男青木理一カ名義ヲ用ヒタル者ニシテ其意思ノ正實ナラサルハ自白ニ依テ明瞭タリ然リ而シテ其買受タル宅地建家ヲ書入抵當トナシ横山致吉ヨリ金百圓ヲ借受ケ即夜止宿所ニ立出敷日間「マサ」ヲシテ所在ヲ知得セシメテ借入金ハ空ク費用セシテ以テ見レハ罪跡ヲ匿ハンカ爲メ僅カニ手附金拾圓ヲ差入レ殘金ハ通常民事ニ讓リ「マサ」カ宅地建家ヲ「レカ」所有トナシ一時金策ヲ爲サントノ詐術ニ出タル者ト斷定ス因テ右科賊盜律詐欺取財條ニ依リ賣買代價殘金百七拾圓ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年申付ル

但宅地建家ハ取揚ケ事主ナル安宅「マサ」ヘ還附ス

青木重兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月三十一日附テ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

第一條

宅地建家賣買ノ契約ヲ締結シタルヨリ后チ代價ヲ拂渡サスシテ遂ニ「マサ」ヨリ告訴及ヒタル迄ノ事實ヲ審査スルニ首尾頗末相牴牾シ引合證人ノ供述ト悉ク齟齬シ一ツモ信ヲ措クニ足ラス「トアルモ安宅「マサ」ト賣買ノ契約ヲ締結シタル后チ代價拂渡サ、ルヨリ告訴スルハ自分ニ於テ了解ニ至ラス何ントナレハ雙方承諾上ヨリ賣買成立チタルニ安宅「マサ」手元ニ於テ紛議ヲ起シ故障ヲ醸スハ自分ノ知ル所ニアラス然ルニ詐欺ノ所爲ヨリ出タル者トシテ突然告訴スルハ却テ「マサ」身前ノ故障ヲ免カレントノ所爲且ツ引合證人ノ齟齬スル處ナシ何ントナレハ後藤靜齋田上勝三郎等開陳スル内靜齋ニ於テハ上申齟齬ノ應有之旨糾問庭ニ於テ御係リ官ヨリ御談有之ヲ以自分ト靜齋ト對決ノ義相願候處靜齋

御召喚ニ相成リ同席ニ於テ靜齋ヘ御糾問相成タル旨趣ハ青木重兵衛義岩國ヨリ歸着安宅「マサ」代理吉川佐七郎ヘ通知ノ次第具ニ上申可致トノ義ニ付靜齋ノ答辨ニ於テハ重兵衛義明治十三年十一月十五日岩國ヨリ廣島ヘ歸着同十六日歸着ノ旨吉川佐七郎ヘ報知尙安宅「マサ」ノ差違レ如何相成タル哉相尋候處戸長ノ處ハ漸ク相分リタル旨佐七郎申聞タルニ付夫ヨリ地家代金取引ノ申値モ致シ候段上申スルニ付豫テ自分ノ開陳ト同一ノ義ニ付對決ニ不及シテ退席ス又田上勝三郎モ同年十一月七日岩國ヘ同伴致シタルニ付出歸ノ次第集等ヨリモ申立必ス相違ノ義ハ無之依テ齟齬スル廉モ亦無之是レ取消ヲ求ムル所以ナリ

第二條

安宅「マサ」ト牲川琢磨カ馴合証告ヲ爲タル證トシテ琢磨ヨリ交附セシ證書提供スルモ是又琢磨カ「己」ノ私書ニシテ證跡トスルニカラナシ「トアルモ琢磨カ直筆實印ノ證書且本年四月廿二日廣嶋裁判所ヘ捧呈スル上申書ニ陳述スル通り琢磨カ眞實ノ吐露加之「マサ」ト馴合ヒ自訴シタルハ「マサ」ト兩名ノ内一分ナレハ屹度効力ヲ有スル證書殊ニ琢磨ニ於テ該件ニ付自首スヘキ事柄ニ無之シテ自首スルハ「マサ」ト馴合タルニ相違無之依テ實際ヲ引起スル證書ナルニカラナシトノ義ハ取消ヲ求ムル所以ナリ

第三條

到底汝カ辨護ノ要點ハ代價金百八拾圓ノ内拾圓ヲ手附金トシテ相渡シ殘金百七拾圓ハ通常預リ證書ヲ差入レ雙方承諾上ニ成立タル者ニシテ只代價受授ノ遷延ニ及タルノミ而シ

其遷延ニ及ヒタルハ買受ノ宅地建家所有主ノ判然セサルヨリ起リタレハ却テ告訴人安宅「マサ」ニ於テ不都合ヲ醸セリト云フニ在リト雖素ヨリ取引ハ通常ナリ只地家所有主判然セサルヨリ安宅「マサ」自ラ不都合ヲ醸セリ自分ニ於テハ該家ノ差純レ判然イタシタレハ殘金相拂可申手組ナルニ自分ヨリ拂ヒ渡ス金圓滯滞スル意旨ハ會テ無之依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第四條

代價百七拾圓ノ預リ證書タル明治十三年十月廿五日成立ニシテ拂渡ス期日ハ翌明治十三年十月廿六日ト在レハ只代金拂渡シノ期日ヲ結了シタル意思ニ外ナラスシテ通常附托ノ金額ニ變更シタル者ニ非ス「トアル」モ最初地所家屋買受約定ハ明治十三年九月十日ニシテ故障無之等然ルチ名前切換濟該代金可相拂約定ノ處「マサ」ノ好ニ應シ殘金預リ證券ニシテ相渡シタル處其宅地建家持主判然セサルヨリ紛議ヲ生シ雙方申値ノ上代金拂方遷延致シタル義ニテ既ニ明治十三年十月廿六日代金相拂ヨリ同十一月七日迄ハ此日自分岩國次第ハ第地家賣却一件ニ付「マサ」ト安宅太郎カ紛議差純レ有之ニ付吉川佐七郎ヲ以テ自分ハ數回斷リ出夫レカ爲メ相渡ス金員遷延ニ至ルハ該差純レヨリ起因スルハ明瞭ナリ素ヨリ金圓貸借上ニ於テ明日金子返却ノ約ヲ結ヒ今日借リ入レ其間貸借主申値ノ上返却ノ期迄金圓預リ證券ヲ債主ヘ相渡シタルハ取引上通常ノ預リ證ナリ且ツ金圓預ノ期限ハ申値成立ツモノニシテ期限ノ長短ニ依テ金圓ノ性質變更スル理ハ有之間敷依テ通常ノ預リ證ニシテ附托ノ金額ニ變更シタルハ言テ不依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第五條

元來賣買ノ契約ニ必要ノ條件ハ代價ナルニ汝ハ明治十三年六月中負債ノ爲メ示談身代限リヲ爲シ未タ配賦濟ニ至ラスノ購求スヘキ資力ナキノミナラス自己ノ名義ヲ用ユル能ハス「トアル」モ債主ノ嚴促ニヨリ金策ノ間合無之無已一旦示談身代限リヲ爲シタルト雖モ財產雜賣ニ至ラスシテ濟口證捧呈致シタル上ハ明治十三年月日不購求スヘキ資力ナキノ義ハ取消ヲ求ムル所以ナリ

第六條

故ラニ二男青木理一カ名義ヲ用ヒタル者ニシテ其意思ノ正實ナラサルハ自白ニ依テ明瞭タリ「トアル」モ自分義一旦身代限リヲ爲シタルト雖モ其身代限リニ不拘理一ノ所有ヲ求ムルニ自分名義ヲ用ヒ置自然自分負債ノ爲メニ該地家ヲ引渡シ候様ノ義有之時ハ名義違ヒノ爲メ不都合ヲ生シ可申趣意ニテ自分ノ所有ヲ求ムル處理一ノ名義ヲ用ヒタルニハ會テ無之既ニ該地家安宅「マサ」ヨリ買受ノ際理一印影照會書差出シ候義ニ付自分方世話方ノ内廣田信平室崎利三郎上田小右衛門等ヘモ相謀リ理一ノ所有ニ買受ヘキ一決致シ候上理一名前ヲ用ヒタル譯ニ有之依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第七條

其買受タル宅地建家ヲ書入抵當トシ横山致吉ヨリ金百圓ヲ借受トアルモ素ヨリ地所家屋安宅「マサ」ヨリ買入得心ノ上理一名前ニ切換雙方連署ヲ以所轄ノ戸長ヘ進達而ノ戸長見届證ヲ得賣買一件一落シ全ク理一所有ニ相成タルニ付代金拂方ノ便宜ヲ以テ買入タル宅

地建家ヲ抵當トシテ横山致吉ヨリ金百圓借り入タルニ於テ不條理有之間敷依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第八條

即夜止宿所ヲ立出數日間「マサ」チシテ所在ヲ知得セシメス」ト有之横山致吉ヨリ金圓借入レタル際未ダ安宅「マサ」ト太郎トノ間ニ於テ差縫レ埒明キ不申ヨリ代金拂方ノ運ヒ難相立折柄自用ノ爲山口縣岩國へ罷越シタリト雖モ此旨後藤靜齋ヲ以「マサ」代理吉川佐七郎へ通暢シ廣島表發足明治十三年十一月十五日廣島へ歸着山田耕造方へ止宿シ歸着ノ次第後藤靜齋ヲ以佐七郎へ報知スルハ同月十六日ナリ然ルヲ所在ヲ知得セシメストハ都合依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第九條

借入金ハ空ク費用セシト」アルハ横山致吉ヨリ借入金ハ太郎ト「マサ」トノ間ニ於テ差縫レ無之候へハ外金ト合併相拂可申手組ノ處其差縫レ埒明カサルヨリ外方へ使用スルト雖モ愈一點ノ差縫レ無之上ハ豫テ外方ニ於テ金圓借り入方用意致シ居候間直チニ拂渡シ可申等ニ付差支ハ無之依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

第十條

罪跡ヲ蔭ハンカ爲メ僅カニ手附金拾圓ヲ差入レ殘金ハ通常民事ニ讓ル」トアルハ罪跡ヲ蔭フト蔭ハカルトノ心根會テ無之如何トナレハ最初地家買受ケノ條約ヲ遂ケ雙方申値ヲ以テ金拾圓相渡シ殘金ハ預リ證券ニシテ渡シ置キタルニ付賣主ニ於テハ都合百八拾圓ノ

全金ヲ領收シタル道理ヲ以地家共買受主名前ト切換相濟ニ然ルヲ不圖「マサ」ト太郎トノ間ニ故障ヲ起シ其故障タルヤ最初買受ノ際ハ和知仲藏ノ所有ト申立其後安宅「マサ」ノ所有ニ變リ「マサ」ハ明治八年度和知仲藏方へ入籍當時和知「マサ」ナルニ安宅「マサ」ト相唱彼是曖昧タル義ニ付是等判然シタル處ニテ金子取引可致「マサ」ニ雙方承諾ナルニ彼レノ故障ヲ取捌キ不申在再遷延及ヒタルヲ罪跡ヲ蔭ハン云々ハ取消ヲ求ムル所以ナリ

第十一條

一時金策ヲ爲サント詐術ニ出タル者ト断定スル」トアルハ會テ詐術ニ出タル金策ニアラズ全ク拂渡ス金圓ノ都合ヲ以借入レタル者ニシテ決テ詐術ニ出タル者ニ無之依テ取消ヲ求ムル所以ナリ

右點々明言セシ如クナルニ依リ無論不服ノ廉前後御研究ノ上至當ノ御處分奉願候

辨明

上告ノ旨趣ハ原裁判所カ認定セシ事實上ニ就テ爲スモノナリ凡ソ事實ノ認定ハ原裁判官ノ主權ナリ然レモ其事實ナリト認定セシ理由ノ性質如何ノ點ハ又本院ニ於テ檢審スヘキ權内ナルヲ以テ今原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ抑其宅地建家ハ賣買ノ手續ニ成立タル姿ナレハ上告人ノ所謂民法ノ手續ニ因レルモノ、如シト雖モ原裁判所へ該契約ノ當初ニ於テ上告人カ詐欺ニ出タルモノト認定シタルモノナレハ即其民法ノ手續ニヨリシモ詐欺ノ手段中ニ係ル故ニ該判文ニ事實ノ理由ヲ證明シ以テ詐術ニ出タル金策ナリト断定セシモノナレハ其性質上不法ト爲スヲ得サルモノトス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年五月二十三日廣島裁判所ニ於テ青木重兵衛ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノ也

第八百八十二號

○判文(毆父ノ件) 明治十四年六月二日上告
明治十四年六月廿九日判決

福島縣岩代國北會津郡石山
村平民佐々本彦四郎長男

佐々木寅藏

明治十四年五月
滿三十六年

右寅藏ニ對シ明治十四年五月二十五日福島裁判所若松支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀明治十四年五月十二日父彦四郎ニ自己ノ妻「マサ」ヲ呼ビ來ルヘシト申シタルニ際
シ父ノ返答ノ氣ニ入ラサルヲ憤リ炬燵櫓並ニ櫻棒等ヲ以テ父彦四郎ノ背又ハ肘ヲ毆チ又
ハ足ヲ以テ腰ヲ蹴チタル科改定律例第二百二十八條ニ依リ懲役十年申付ル

福島縣八等警部二村俊一郎於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年六月二日付ヲ以テ司法卿ヲ
經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

本犯ノ父彦四郎ヲ毆チタルヤ櫻棒ヲ以テ肘關節突起部ヲ毆チ傷ヲ成シタルモノニシテ其
傷タル醫ノ診斷書ニ依リ瞭然タリ依テ例第二百二十八條祖父母父母ヲ毆チ傷スル者ハ懲
役終身ト云フニ依リ終身ノ懲役ニ處スヘキモノトス然ルニ裁判所ニ於テハ傷ヲ成サ、ル

モノト爲シ懲役十年ニ處斷セリ是其裁判ヲ不當ナリトシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ福島縣八等警部二村俊一郎カ公訴狀ニ書類五通
ト明記シアリサスレハ原裁判所カ審理ノ當時四通ノ外アラサル上ハ其壹通不足ノ理由ヲ
詳明ニシ判決スヘキハ當然ナリトス而シテ上告者カ上告スルニ當リ曩ニ公訴ノ際送附シ
タル醫師ノ診斷書ノ在ラサレハ之レヲ裁判所ニ照會スルニ其所在ヲ知ラス終ニ當時受附
掛リ西岡直太郎ノ疎漏ニ歸シタリ故ニ上告者ニ於テハ糊ツテ若松病院詰九等醫森川寅藏
カ負傷人彦四郎ヲ診察シタル容体書ヲ徵シ本院ニ差出シタリ右ハ未タ初審ヲ經サル證憑
ナルヲ以テ本院ニ於テハ之レヲ採用シカダシト雖モ原裁判所カ公訴狀ヲ疎漏ニ看過スル
ノミナラス被害人ヲ訊問シタル其口供モナク審ニ被告人ノ口供ノミヲ以テ改定律例第二
百二十八條ニ依リ懲役十年ト處斷シタルハ未タ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十五日福島裁判所若松支廳ニ於テ佐々木寅藏ニ言渡
シタル裁判ヲ破毀シ新瀉裁判所新發田支廳ニ於テ裁判スヘキ旨相達シタルニ付福島縣八等
警部二村俊一郎ニ於テハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第八百八十三號

○判文(盜贓故買ノ件) 明治十四年五月十八日上告
明治十四年六月廿九日判決

兵庫縣攝津國有馬郡福島村

平民

元井九郎兵衛

明治十四年五月

五十年五月

明治十四年五月九日神戸裁判所ニ於テ右九郎兵衛ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀詐爲文書詐欺取財等俱發ノ科ニ依リ處刑ヲ受ケン身分尙ホ明治十三年十一月中旬
本徳三郎外二人ノ持來ル物品ハ盜贓タルヲ心得ナカラ故サテニ買取ル贓金七拾五圓五拾
八錢餘ナル事任意ノ白狀主犯ノ申立各被害人評價人ノ陳述ニ依リ罪證明白ナリ右科賊盜
律盜賊竊主條盜贓ヲ知テ故サテニ買フ者ハ買フ所ノ者ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論スト云フニ依
リ受贓律坐贓致罪條六拾圓以上答五十トアルニ照シ懲役五十日申付ル
但贓金ハ資力限取揚ル

元井九郎兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月十八日附ヲ以テ本院ニ上告
ノ要旨左ノ如シ

一自分儀農業ノ餘間ニ古手賣買致シ居タリ然ル處明治十三年十一月中一宿セシメタル客
人ノ所持スル品買取リタルハ固ヨリ盜贓ノ品トハ存セス買取リ其後又買取リ都合二
度買取リシ金高合九圓五拾錢ニ相違無之ニ今般神戸裁判所ノ言渡ニ因レハ已ニ七拾五圓
五拾八錢餘トアルハ不服ノ至リナリ

辨明

元井九郎兵衛カ口供ニ(最初ノ分モ不正品トハ察知致居候哉御尋テ受ケ恐入候右兩度共

不正品ナラント察知致居候事ト明瞭ニ自認セシニ據ツテ即チ盜贓タルヲ知テ故買セシ
ト確實ナリトス又盜賊竊主條ニ其強竊盜云々ノ贓タルヲ知テ故サテニ買フ者ハ買フ處ノ
物ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論ストアリ故ニ九郎兵衛カ罪ヲ斷スルハ徳三郎等ヨリ買ヒ取タル盜
贓ノ物品ヲ評價シ以テ其刑期ヲ判定スルモノニシテ九郎兵衛カ徳三郎等ニ交附シタル金
額ノ多寡ニ關係ナキ故ニ原裁判所ニ於テ贓金七拾五圓五拾八錢餘盜賊竊主條ニ依リ
坐贓ヲ以テ論シ懲役五十日ト言渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如シナルヲ以テ明治十四年五月九日原裁判所ニ於テ元井九郎兵衛ニ言渡シタル裁判ハ
破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第八百八十四號

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治十四年五月廿八日上告
明治十四年六月廿九日判決

福岡縣筑後國生業郡山北村

平民

堀

市作

明治十四年五月
二十六年九月

右市作ニ對シ明治十四年五月十九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀竊盜ノ科ニ依リ再度處刑ヲ受クルモ尙ホ改心セス明治十三年陰曆八月以來松本藤
八方外壹ヶ所ニ於テ物品竊取スル科竊盜三犯贓金五拾圓以下賊盜律竊盜條ニ依リ懲役十

四四三

年自首スルモ贓徴ス可カラサルヲ以テ自首條ニ照シ二等ヲ減シ懲役五年申付ル
但已ニ費用セシ贓品ノ估計金ハ資力ナキヲ以テ追徴セス

福岡縣八等警部大崎利三郎於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十四年五月二十八日付ヲ以テ司法
卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀左ノ如シ

右被告堀市作ナル者竊盜三犯自首ノ罪述アルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳へ公判ヲ需メ置
キタル處明治十四年五月十九日別綴宣告書按ノ通竊盜三犯贓金五拾圓以下懲役十年自首
スルヲ以テ懲役五年ト處斷シタリ此ノ罪ヲシテ假リニ原裁判ノ如ク自首ヲ與フモノトセ
ハ被告ノ所爲ノ如キハ事未タ發覺セサル前眞心悔悟官ニ首出セシモノナレハ原ト全免ス
可キモノニシテ贓徴ス可カラサルノ故ヲ以テ二等ヲ減シ罪ヲ科ス可キモノナレハ素ヨリ
犯數ニ計フルモノニ非ラサレハ焉ノ之レヲ竊盜三犯ト名稱スルコトヲ得ンヤ因テ被告ノ
罪ヲ治ムルハ宜ク最後一次ノ盜罪贓金拾圓以上懲役七十日ヲ本罪トシ贓徴ス可カラサル
ヲ以テ二等ヲ減シ懲役五十日ニ處ス可キモノナリ然ルニ被告カ久留米警察署ニ於テ爲シ
タル口供及ヒ同人カ嚮ニ受ケタル處刑ノ判文ヲ閱スルニ初メ竊盜ノ罪ヲ犯シ官司ノ斷決
ヲ經テ再ヒ詐欺取財竊盜雇人盜家長財物ノ三罪ヲ犯シ詐欺及ヒ竊盜ノ二罪ハ自首スルモ
徴ス可カラサルノ贓金貳拾圓以上ナルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役六十日ト包藏セシ雇
人盜家長財物ノ贓金壹圓以上懲役七十日ノ二罪俱發スルヲ以テ一ノ重キ改正雇人盜家長
財物律ニヨリ再犯ニ係ルヲ以テ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役八十日ノ受斷ヲ經ルノ後尙ホ盜罪
ヲ犯シ自首スルモノナレハ例第六十六條ニヨリ凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯

ス者ハ減免スルヲ聽サストアルニヨリ被告ノ如ク既ニ首出シテ減免ヲ經ルノ後同罪ヲ
犯シタルモノハ自首スルヲ尙ホ賊盜律竊盜條ニヨリ竊盜三犯贓金五十圓以下懲役十年ノ
本刑ヲ加フ可キニ該支廳ニ於テハ前顯ノ如ク自首スルモ贓徴ス可カラサルト云フヲ以テ
二等ヲ減シ懲役五年ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス是ヲ以テ該裁判ノ破毀
ヲ需ムル爲メ上告スルコト如斯

辨明

上告ニ由リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ堀市作ニ於テハ明治十三年六月九日竊盜及詐欺
取財併贓金貳拾圓以上ハ自首シテ贓徴スヘカラサルヲ以テ本罪ヨリ二等ヲ減シ懲役六十
日雇人盜贓金壹圓以上ハ自首ニ係ラサルコト因リ一ノ重ニ因リ再犯ニ付一等ヲ加ヘ懲役八
十日ノ處斷ヲ受ケタリ今又市作カ竊盜贓金拾三圓七拾錢ノ罪ヲ犯シ自首シタルモ改定律
例第六十六條罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルヲ聽サストアルニ
依リ減免ヲ聽サハルモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月十九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ堀市作ニ言渡シタル
裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

堀市作

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ賊盜律竊盜條竊盜三犯贓金五拾圓以下懲役十年ノ處二
等ヲ酌減シ

懲役五年
第八百八十五號

○判文(官林ノ杉木ヲ折取セシ件)明治十四年五月三十日上告
明治十四年六月廿九日判決

福岡縣筑前國鞍手郡永滿寺
村平民

山本 染 吉
出生年月不詳

福岡縣筑前國鞍手郡永滿寺
村平民次市長男
太田市 太郎

出生年月不詳

福岡縣筑前國鞍手郡永滿寺
村平民佐八三男
中野市 太郎

明治十四年五月
十七年三月月

右染吉外二名カ所爲ニ對シ明治十四年五月二十一日長崎裁判所福岡支廳管内小倉區裁判所
ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ

山本 染 吉

其方儀明治十四年四月六日太田市太郎外壹人ヲ申勸メ官林ニ立込ニ杉ノ枯木ヲ折取ル罪
金拾五錢ノ科賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ官林ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役六十日申付ル
但折取ル杉枝並ニ鎌壹挺ハ取揚ル
太田市 太郎

其方儀明治十四年四月六日山本染吉ノ發意ニ同シ官林ニ立込ニ杉ノ枯枝ヲ折取ル罪金拾
五錢ノ科賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ官林ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役六十日可申付處從
タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役五十日申付ル
但折取ル杉枝ハ取揚ル
中野市 太郎

其方儀明治十四年四月六日山本染吉ノ發意ニ同シ官林ニ立込ニ杉ノ枯枝ヲ折取ル罪金拾
五錢ノ科賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ官林ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ從タルヲ以テ一等ヲ減
シ懲役五十日可申付處癡疾者ナルニ付收贈シ收贈金壹圓貳拾五錢申付ル
但折取ル杉枝並鎌壹挺ハ取揚ル
福岡縣八等警部細井昌太郎於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月三十日付ヲ以テ

司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
山本染吉外二名ノ犯罪タル明治十四年四月六日染吉發意ニテ福岡縣筑前國鞍手郡永滿寺
村字柚ノ木原官林ヘ立入タルヲ發見シ現時取調ナシタル告發人則チ官林五等巡視竹森
次郎ノ告發ニ起因セシ者ナリ然リ而シテ該書中「右三名ノ者共杉ノ落葉ヲ拾ヒ取居候條
四四七

猶巨細取調候處中野市太郎ナル者ハ鎌ヲ携ヘ已ニ生木ノ凡ソ三寸廻リ位ノ杉ヲ盜伐シ棒子ニ致居候又山本染吉ハ落葉拾ヒ取タル内ニ少シシ雜木ノ生木ヲ混シ居リ猶歸路棒子ヲ伐採セント欲スルノ存意ニ付宿元ヨリ棒子ハ携ヘサル旨申立候太田市太郎ナル者ハ全ク切者ヲ携ヘス枯葉ノミ拾ヒ取タル事云々該村用懸リヨリ竹森次郎へ出シタル預リ書ニハ「杉ノ枯枝三尺繩各貳把ツ、折取立歸ラントセシ云々拾ヒ取リタル杉枝ハ居村用懸リ預ケラレ」云々トアリ中野市太郎ハ「杉ノ枯枝三尺繩各貳把程鎌ニテ伐リ取リ」云々求刑書備考ニハ告發書中生木云々アレハ該犯於テハ生木ヲ伐リタルト無ト申立且其伐リタル證據ナキヲ以テ」云々トアリ而シテ又小倉區裁判所ニ於テナシタル口供ニハ該二名共「杉ノ枯枝三尺繩各貳把ツ、都合六把折リ取リ立歸ラントスル處」云々トアリテ盜伐ノ用ニ供セサル染吉及ヒ中野市太郎カ所持セシ鎌ハ沒收シタリ抑モ本件タル最初飯塚警察署ヨリノ取調ヨリシテ漠然管染吉ノ發意トノミコテ其發意タル官林ニ於テ生枯木ヲ論セス薪ヲ伐採セントノ意ナルヤ將タ枯枝落葉ヲ拾ヒ取ラントノ意ナルヤ其ノ起因ヲ推糺セサルノミナラス太田市太郎ニ於テハ枯葉ノミ拾ヒ取リタルヤ將タ枯枝ヲモ折リ取リタルヤ否染吉ニ於テハ落葉拾ヒ取リタル内ニ果シテ雜木ノ生木ヲ混シ居ルヤ且ツ枯枝ヲモ折リ取リタルヤ否中野市太郎ニ於テハ果シテ生木及ヒ枯枝ヲモ伐採セサルヤ否ノ虛實ヲ證明スヘキ一ツノ證據書類モナク悉ク前後矛盾シ未ダ完備セサル取調ナルニ小倉區裁判所ニ於テモ亦タ單ニ本犯ノ供出ノミヲ以テ之レヲ悉ク枯枝ヲ折取リタル者

ト認メテ處斷シタリ依テ假リニ之レヲ悉ク折リ取リタル者ト看做スモ毫モ犯時ノ用ニ供セサル鎌刀ヲモ應禁物ナル博具等ノ如ク併セテ沒收スヘキノ法律ナシ然ルヲ沒收シタルハ是亦何等ノ法律ニ依據スル者ナルヤ本職ニ於テ該裁判ハ未ダ審理ヲ盡サス聽斷ノ法ニ背キタル其不當ノ裁判ト認メ上告破毀ヲ求ムル所以ナリ右ノ理由ナルヲ以テ檢事章程第二條ニ依リ該裁判ニ關スル書類相添此段上告候

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審閱スルニ官林巡視竹森次郎カ告發書ニハ中野市太郎ハ鎌ヲ携ヘ既ニ生木ノ凡三寸廻リ位ノ杉ヲ盜伐シ棒子ニ致居又山本染吉ハ落葉拾取タル内ニ少シシ雜木ノ生木ヲ混シ居云々太田市太郎ハ枯葉ノミ拾取タル事明瞭云々トアリテ各其所爲ヲ異ニス而テ山本染吉太田市太郎カ警察署ニ於テ爲シタル口供ニハ杉ノ枯枝三尺繩各貳把ツ、折取云々トアリ中野市太郎カ中野佐八ヲ以テ通事トナシ警察署ニ於テ爲シタル口供ニハ杉枯枝三尺繩各貳把程鎌ニテ伐リ取リ云々トアリテ竹森次郎カ告發書ト齟齬シ而シテ公判庭ニ於テハ杉ノ枯枝ヲ折取リタル旨各申立何レヲ眞實ノ申立トスルカ證ノ見ルナク果テ枯枝ヲ折取タル者トナサハ盜罪ヲ以テ論スヘキノ者ニアラス又犯罪ノ具ニ供セサル鎌ヲ官沒スヘキノ理由ナシトス然ルハ原裁判所ニ於テハ枯枝ノミヲ折取タルヤ或ハ生木ヲモ伐採シタルヤ携ヘタル鎌ヲ用ヒタルヤヲ審究セス只枯枝ヲ折取タルトノ口供ニ依リ盜田野藪麥條ニ依リ處斷シ鎌ヲ官沒シタルハ未ダ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十一日長崎裁判所福岡支廳管内小倉區裁判所ニ於テ
 山本染吉外二名ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ熊本裁判所中津支廳ニ於テ審判スヘキ旨ヲ達シ
 タルニ付山本染吉外二名ニ於テハ更ニ熊本裁判所中津支廳ノ審判ヲ受クヘシ
 第八百八十六號

○判文〔謀殺ノ件〕明治十四年五月十六日上告
 明治十四年六月廿九日判決

大坂府大和國宇陀郡下守道
 村平民

中村清三郎

明治十四年五月
 四十九年三ヶ月

明治十四年五月七日大坂裁判所堺支廳ニ於テ右清三郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
 其方儀明治十三年三月四日同國吉野郡小名村野原由藏ヲ謀殺セント負傷セシメ遂ニ死ニ
 致セシ犯罪者ナリト檢察官ニ於テ公訴シ來ルヲ以テ遂審鞠處更ニ覺ヘナキ旨申張セリ而
 ノ檢察官カ犯罪者ト見認ル所ハ當時被害者由藏カ死ニ至ラントスルノ際巡查ノ面前ニテ
 押印シタリト稱スル口供ト其方カ由藏ノ妻「カナ」ト姦通シ居リタルト又糾問判事ニ於テ
 其方カ該夜他ニ止宿シタリト供スルモ證據人數名カ他ニ止宿セサリシト申立ルヲ以テ其
 方ノ陳供ヲ虛偽トナシ行兇者ナリト豫斷セシ等ヲ以テスト雖モ其由藏ノ口供ナル者ハ既
 ニ致命ノ大傷ヲ受ケ死ニ至ラントスル際ニ成立タル者ニテ或ハ精神錯亂ニアリタルヤモ

知ルヘカラス當該巡查ニ於テハ由藏カ傍人ヲ避ケシメタリト申立レモ何ソ行兇人ヲ指名
 スルニ傍人ヲ避ケシムルニ及フヘケンヤ且其際該家ニアリタル村總代橋本源三郎於テハ
 由藏ハ當時言語譯リカタシト申立ル等ニヨレハ由藏カ口供ニ於テモ疑ナシトセヌ況ヤ他
 ニ據ヘキノ證據ナキニ於テヤ又姦通ノ事ノ如キハ必ス行兇セシトノ證據ニ立カクシ又
 該證據人等ナシテ更ニ審問スレハ確然他ニ止宿セサリシトハ明言スル能ハサルナリ然レ
 ハ右證據人等ノ言モ又信スルニ足ラス加之該夜由藏カ所有物品數點盜ミ去ラレタルヲ見
 レハ之ヲ謀殺セントモシ者ノ爲メナラスシテ全ク他ノ盜犯ノ所爲ナリシヤモ又知ルヘカ
 ラス然ルチ今疑フ所ナキ能ハサル一ノ由藏カ口供ノミヲ以テ直チニ行兇者ト斷定シカク
 シトス依テ證據具備セサルニヨリ放免ス

大坂府八等警部中西保ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年五月十六日附テ以テ司
 法卿ヲ經由シ明治十四年六月十七日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

大坂府大和國宇陀郡下守道村平民中村清三郎義他人ノ妻ト姦通シ遂ニ其本夫ヲ謀殺セシ
 所爲有之ヲ以テ口供甘結セスト雖モ明治十三年十一月十六日別紙公訴狀ノ通り及求刑候
 處大坂裁判所堺支廳ニ於テハ明治十四年五月七日別紙宣告書ノ通り裁判ヲナシタリ抑本
 犯ノ所爲タルヤ被害者ナル野原由藏ノ妻「カナ」ト豫テ姦通シナシ尙其欲情ヲ逞セント欲
 シ本夫由藏ヲ殺害セント明治十三年三月五日午前二時頃突然該宅ニ押入り打臥シ居ル由
 藏ヲ毆傷シテ遂ニ死ニ至ラシメ而シテ其罪ヲ免カレント欲シ該家ノ物品ヲ故テニ散亂若ク
 ハ衣類ヲ奪取シ強賊ノ所爲ニ仕做シ數日ヲ經過セシ後チ之レヲ途中ニ投棄シ證據ヲ隱蔽

セントセシ者ニ別紙口供ノ如ク申立テ招承ニ服セスト雖モ衆口ノ傳説若クハ姦通ノ事
 情又ハ該夜他ニ止宿シタリト虚偽ノ申立テ且警察官ノ捕獲ヲ恐レテ所々ニ潜匿チナシタ
 ル犯罪ノ徵驗則事實ノ推測ト由藏カ未タ存命中現ニ出張ノ巡査ニ本犯カ所爲タルヲ確
 言シテ摺印チナシタル口供則本犯チノ行兇者ナリト認定シ得ヘキ證左ト法ノ推測チ下ス
 ニ足ルヘキ相當官吏ノ檢視明細書若クハ意見書(一等巡査松川直三ノ意見書中足跡二點
 疎漏ヨリ其寸尺等ヲ詳記シ置カサリシヲ以テ)亦ハ別紙圖面ノ如ク云々トアレ共當該官ノ
 テ今ニ於テハ證據トスルノ力ナシ惜ムヘシ)亦ハ糾問判事ノ心證則意見書ニ據ルモ由藏
 チ殺害セシハ本犯ノ所爲ト確認スルニ足ルヘキモノナレハ殺死姦夫律第二項ニ依リ斬罪
 ニ處スヘキニ裁判官ニ於テ由藏カ口供ハ既ニ致命ノ大傷ヲ受ケ死ニ至ラントスル際ニ成
 立チタル者ニテ或ハ精神錯亂シアリタル哉モ知ルヘカラス當該巡査ニ於テハ由藏カ傍人
 チ避ケシメタリト申立レ何ヨリ行兇人チ指名スルニ傍人チ避ケシムルニ及フヘケンヤ且
 其際該家ニアリタル村惣代橋本孫三郎ニ於テハ當時言語譯リカタシト申立ル等ニ依レハ
 由藏カ口供ニ於テモ疑ヒナシトセス况ンヤ他ニ據ルヘキノ證據ナキニ於テチヤトノ理由
 チ付シ該口供ニ疑念チ容ル、ト雖モ凡人ノ將ニ死セントシテ其遺言チナスヤ苦痛煩悶ノ
 餘例ヒ一時精神錯亂セシモ必ラス天稟ノ精神ニ回復シ心氣チ確定スルハ自然ノ常理ニシ
 テ之レチ人情ニ問フモ實際ニ照スモ敢テ疑ヒチ容ルヘキ者ニ非ス况ンヤ暴惡非道ナル姦
 夫ノ爲メニ非命ノ死チ遂ケントスル無限ナル不幸ノ運ニ際會スルヤ衝天憤怒ノ氣チ發シ
 敢テ精神錯亂スル者ニ之レナク必スヤ其遺憾チ復酬セント欲シ勤メテ精神チ確定スル者
 ナルニ於テオヤ其傍人チ避ケシメタルハ想フニ之レチ口外ニ輕發シ爲メニ他人ニ漏泄シ

テ空ク行兇人チシテ規避ノ豫備チナサシメンヲ恐レシ者ナラン豈ニ必シモ理由ナシ
 トスヘケンヤ然リ而シテ橋本孫三郎カ言語譯リカタシトノ申立テハ畢竟由藏カ苦痛ノ形況
 チ目撃セシノミニシテ其精神ノ確定セシ時ニ際會セシ者ニ非サレハ豈ニ之レチ直ニ
 精神錯亂セシ者トノ證左ニナスヘキ者ナランヤ况ンヤ由藏カ死ニ至ルマテ起臥チ自カラ
 セシト姦婦「カナ」カ申立テモ之レアルニ於テチヤ殊ニ該口供ハ被害者ノ告訴ニ依テ出張
 ノ巡査カ再三入念シテ之レチ問糺シ決シテ相違之レナキ旨確答スルヲ以テ公平ニ徵取シ
 摺印チナサシメタルモノナリ豈ニ關係ナキモノニシテ無實ナルヲ書記スヘキ謂レアラ
 ンヤ况ンヤ本犯カ未タ何人タルヲ豫知セシモノニ之レナキニ於テチヤ亦タ橋本孫三郎ニ
 於テモ由藏カ口供ニ摺印チナシ巡査ニ呈供ナシタルヲ承知云々ト申供セシニ非スヤ然
 レハ則チ何チ疑ヒ之レチ信容セサルカ」亦姦通ノ事ノ如キハ必ラス行兇セシトノ證據ニ
 立カタント素ヨリ姦通ノ事チ以テ直チニ行兇セシトノ證據ニナシタルモノニ非ス畢竟犯
 罪ノ原因ヲ推測スレハ益々姦情ヲ逞セントノ慾心ニ發シタル者ナレハ犯罪ノ徵驗則事實
 推測チ下スニ充分ナル者トス」又該證據人等チシテ更ニ審問スレハ確然他ニ止宿セサリ
 シトハ明言スル能ハサルナリ然レハ右證據人等ノ言モ又信スルニ足ラスト素ヨリ證據人
 等ノ供出ハ更ニ一二ノ變言ナキニ非レハ到底止宿セサリシト夜半過キ頃迄本犯カ高岡
 惣五郎宅ニ打臥シ居タルモ其翌朝ニ居合サ、リシトハ峰熊吉及ヒ惣五郎妻「ユキ」ノ申立
 ニヨリテ明瞭タリ然レハ則熊吉カ惣五郎宅ヨリ歸宅セシ時刻ト由藏カ殺害セラレシ時刻
 トチ比較スルルハ本犯カ惣五郎宅ヨリ直チニ由藏カ宅ニ至リシ者ト推測セサルチ得サル

ヘシ然ラハ必ス其翌朝マテ惣五郎宅ニ打臥シ居ルヘキニ如何シテ他ニ止宿セサリシトハ
 明言スル能ハサルカ」亦該夜由藏カ所有物品數點盜ミ去ラレタルヲ見レハ之レヲ謀殺セ
 ントセシ者ノ爲メナラスシテ全ク他ノ盜犯ノ所爲ナリシヤモ又知ルヘカラスト凡ソ人ヲ
 殺シテ財物ヲ奪取スル如キ強賊ニアリテ故サラニ夥多ノ物品ヲ散亂シ僅カニ少數ナル衣
 類八點ノミヲ奪取セシ者ナランヤ好シヤ之レヲ奪取セシ者トスルモ更ニ消費セズ數日ヲ
 經過スルノ後チ空シク之レヲ途中ニ投棄スル如キ所爲チナスモノナランヤ畢竟本犯カ豫
 テ姦通ノ事情及ヒ曾テ姦婦ト相謀リ毒藥ヲ投與セシコトヲ世衆ノ諒知スルヨリ忽チニシテ
 殺害セシコトノ發覺ヲ恐レテ故サラニ強賊ノ所爲ニ仕假シ一旦衣類ヲ奪取セシト雖モ之レ
 チ所持スルハ亦發覺ノ恐レアルヲ以テ密カニ途中ニ投棄シ其罪跡ヲ隱蔽セントナシタ
 ル者ナリ然ラサレハ豈ニ其後ニ至リ愛育スヘキ實子ヲモ打棄テ自宅ニモ住居セス所々ニ
 宿泊シテ潛匿スル如キ所爲チナスモノナランヤ斯ノ如ク犯罪ノ顯跡アルニ證憑具備セサ
 ルトテ之ヲ放免ナシタルハ不當ノ裁判ナリ夫然リ而シテ既ニ論究セシカ如ク犯罪ノ原因
 ハ素ヨリ姦情ヲ逞セントノ慾心ヨリ起リシ者ナレハ改定律例第百六十九條ニ依リ例ヒ姦
 婦ニ於テ情ヲ知ラスト雖モ懲役終身ニ處スヘキ者ナルヲ共ニ公訴チナサ、リシハ當該官
 舊堺縣元十等警部並川清望カ疎漏ノ失錯タリト雖モ糾問掛リハ勿論裁判官ニ於テモ之レ
 チ不問ニ差置クヘキ者ニ非ス況ンヤ姦婦カ故ナキニ他出チナシ其途中則上田久太郎宅ニ
 於テ本犯ト密會チナセシ翌日ニ忽チ行兇チナシタルノミナラス姦婦カ他ニ滯在中常ニ
 舉動ノ穩カナラサリシハ果シテ姦夫カ行兇チ遂ケシヤ否ヤヲ煩慮セシ者ト推測セサルチ

得サル景況ト曾テ姦夫ト共ニ謀リテ毒藥ヲ與ヘシトノ衆說ニ依リテ其レ之レヲ推測スレ
 ハ姦夫ト共ニ謀テ本夫ヲ殺害セシ者ト見做サ、ルヲ得サルニ於テオヤ是レニ依リテ之レ
 チ見ルモ不當ノ裁判ニシテ到底充分ノ審理ヲ悉シタル者ニ非ストス故ニ上告シテ破毀チ
 求ムルコト斯ノ如シ

辨明

上告ノ主點トスル夫ノ被害者カ死ニ瀕スル際臨檢巡查ノ目前ニ於テ爲シタル口供ハ唯其
 被害者ノ片言ニ止リ該兇行者ハ果テ清三郎ナリトノ證據アルコト無シ然而シテ其妻某ト姦
 通之カ因由ヲ爲スモノニシテ其兇行ニ及フ所以ナリト云カ如キハ亦臆測ニ止マルモノト
 ス是ヲ以テ該兇行者ハ清三郎ナリト推定スヘカラサルヲ以テ原裁判所カ清三郎チシテ行
 兇者ト爲スノ證憑完備セサルモノトシタルハ敢テ不法トナスヲ得ス

判決

右ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十四年五月七日大坂裁判所堺支廳ニ於テ中村清三郎ニ云
 渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第八百八十七號

○判文(證書詐爲ノ件)明治十四年六月十五日上告
 明治十四年六月廿九日判決

東京府神田區五軒町一番地

平民

宮崎伊兵衛

四五五

右伊兵衛カ所爲ニ對シ明治十四年六月八日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
明治十四年四月
四十五年五月

其方儀明治六年二月廿三日付ノ酒井忠美與印アル證書ハ當今死亡酒井功ノ周旋ニテ領收シタル旨申供スルモ酒井忠美ノ供述ヲ以テ之ヲ觀レハ同人ハ依頼シ詐爲シタル者ト認定ス因テ右科改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日申付ル
但該證書沒收ス

宮崎伊兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月十五日附テ以テ大審院ニ上告爲シタル要旨左ノ如シ

第一條

東京裁判所ハ酒井忠美ノ供述ヲ以テ上告人ノ自分ニ於テ忠美ハ依頼シ明治六年二月二十三日付忠美與印アル證書ヲ一號トシ詐爲セシ者ノ如ク認定セラレシモ是レ固ヨリ誤謬ノ認定ト謂ハサル可ラス如何トナレハ忠美カ今回ノ自首及其供述等ノ如キハ遠田澄カ上告人ハ對スル民事裁判敗訴ノ後チ悉ク忠美ハ依頼シ故ラニ作爲セシ所業タルト上告第二號證 忠美ヨリ其舊臣千本 清三郎宛ノ書簡ナリニ憑テ證明スヘケレハナリ

第二條

其一條ノ如ク上告第二號證ヲ以テ忠美ノ自首無効ニ歸スルキハ上告第一號證ノ詐爲タラサルコトハ證據ニ照ラシテ明カナリ然ルニ該裁判所ハ本件ノ辨護ニ最有効タル上告第二號證ヲ度外ニ措キ獨リ忠美ノ供述ヲ片信セラレ以テ上告人カ第一號證ヲ詐爲セシトノ認定

ハ探證法ニ適セス極メテ不當ノ裁定ト思考仕候

第三條

第一二條ニ辨明セル如ク上告第二號證ノ如キハ忠美カ偶然誠意ヲ吐露セシ者ニシテ本件ニ最大有効ノ者タルニ東京裁判所ハ斯ル有効ノ證據ヲ措キ忠美カ澄ノ依頼ニ依リテナシタル不實ノ自首及ヒ其供述等ヲ妄信セラレ以テ犯罪ノ證據ナキ上告人ニ對シ前記ノ如ク裁決セラレシハ此亦決テ服從能ハサル所ナリ况ンヤ今回更ニ當御院ニ提供スル第三號證アルコト於テナヤ

右ニ掲グル如キ次第ニ付東京裁判所ノ裁決ハ不當ナル者ト思考仕候間今般上告仕候依テ何卒同裁判所ノ判決ヲ翻ヘシ更ニ至當ノ御裁斷被成下度此段奉願上候也

辨明

原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ上告人宮崎伊兵衛カ所爲ニ對シ改定律例第二百四十六條私ノ文書ヲ詐爲スル者不應爲ノ輕ニ問ヒ懲役三十日ノ處斷爲シタリ然ルチ上告人伊兵衛ニ於テハ明治六年二月二十三日附ノ酒井忠美與印アル證書ハ當今死亡酒井功ノ周旋ニテ領收セシニアラス遠田澄カ酒井忠美ヲ教唆シテ不實ノ自首ヲ爲サシメタルナリ何トナレハ三月二十三日四月二十三日附ノ忠美ヨリ千本清三郎宛タル書翰ニ通小田井藏太ハ宛タル書翰一通等ヲ以テ證據トナシ辨論スルニ因リ其書翰ヲ閱スルニ澄カ忠美ヲ教唆シ不實ノ自首ヲ爲サシメタルノ徵憑ト爲スニ足ラサルヲ以テ觀レハ忠美ノ自首狀及ヒ口供澄カ供述等ヲ以テ眞實ナリト原裁判所ニ於テ認定シタルハ不當ニアラストス依テ改定律例第二

百四十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ處斷シタルハ至當ノ裁判ナリトス
判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月八日東京裁判所ニ於テ宮崎伊兵衛へ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也
第八百八十八號

○判文(強姦ノ件) 明治十四年六月六日上告
明治十四年六月廿九日判決

兵庫縣平民但馬國氣多郡伊
府村善右衛門長男

船田音藏

明治十四年五月
十九年六月

右音藏カ所爲ニ對シ明治十四年五月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ
リ
其方儀明治十四年四月四日夜佐田村常光寺へ參詣ノ途中篠垣村太七郎娘西田「ミツ」ニ選
近シ同人ヲ路傍ノ田畔ノ下へ扯抱へ往キ通姦セシハ納得上ナリト辨護スレモ被害者ハ勿
論各證人ノ陳述及ヒ最初豊岡警察署ニ於テ爲シタル招承等ニ據テ觀レハ「ミツ」カ聽順セ
サルヲ暴行ヲ以テ姦淫ゼシハ明瞭ナリトス因テ右科犯姦律犯姦條第三項強姦スル者ハ流
三等トアルコ照シ懲役十年ニ處スヘキ處酌量スヘキ情狀アルヲ以テ明治七年第三百二十四
號布告ニ依リ本罪ニ五等ヲ輕減シ懲役二年申付ル

船田音藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月六日付ヲ以テ本院ニ上告ノ旨趣
左ノ如シ

右船田音藏上告シ奉ル私儀本年四月四日夜同郡佐田村常光寺鐘引ニ付淨瑠璃會ニ參ル途
中私村方ヨリ凡一丁計隔タル篠垣村太七郎娘西田「ミツ」ナル者同人妹并外女ト三人連レ
ニテ同ク淨瑠璃會ニ進出逢ヒ右「ミツ」ハ平生殊ニ親シスル故肩ニ取付合ヒ相戯レ
歩行スル處前顯同行ノ女ハ先キエ行キ過キ相見ヘス依テ淫情發リ「ミツ」ヲ挑ミタル處一
應ハ拒ミタレモ終ニ承諾スル故相談ノ上途ヨリ七間計傍ノ堤ヘ行キ私着用ノマントウヲ
脱キ該堤ニ敷キ相共ニ戯ムレ合終ニ和姦ニ及ヒタル處何人共不知來ルニ付見付ラレテハ
不都合ト存シ「ミツ」ニモ早ク逃ケヨト申聞ケ私ハ速ニ其場ヲ立去ル然ニ「ミツ」ハ不來如
何ト心配乍致歸宅スル上竊ニ承レハ私該場ヲ去タル跡ニテ「ミツ」儀二人ノ男ニ捕ヘラレ
シ由ノ處其後十二三日過キ豊岡警察家原分署ヨリ巡查御出張ニテ拘引セラレ前件御糺ノ
節相互ニ相談ノ上通淫致候始末有体申上該口供ニ摺印ノ上一應入檻翌日出石警察署へ送
ラレ又一應留置ニ相成翌日豊岡へ護送ニ相成強姦致シタル哉御糺彈有之ト雖モ決シテ強
姦ハ致サス「ミツ」納得ノ次第申上シ處善助良藏モ其場ニ居ル哉御尋有之私和姦ノ節右兩
人ハ見受不申ト雖トモ翌日幾藏ナルモノ、嘶ニ同夜善助等モ「ミツ」ニ姦通致シタル由
承リタリト上申シ置夫ヨリ十四五日相過キ熊藏幾藏ハ其場ニ居ラス哉ト御尋問有之ト雖
モ存セサル旨申述置シ處姫路へ護送ニ相成リ警察署ニテハ御糺無之直ニ神戸裁判所姫路
支廳刑事課ニ於テ一通リ御尋ノ節矢張前顯ノ事實毫モ相違ナキ旨申立置ク然ニ何ソ圖ラ

ノ突然強姦ノ處刑申渡サレタリ眞ニ不服ニ堪ヘス右宣告書ニ扯抱ヘ云々辨護スレヒ云々トアリ然レ私ノミ扯抱シコ非ス「ミツ」モ亦私ヲ抱ヘ相俱ニ戯ムレタル上通姦セシナリ殊ニ被害者トアレヒカノ女納得ノ上俱ニ樂ミシ事ニ付何ソ之ヲ被害者ト云ンヤサレトモ「ミツ」儀法庭ニ於テハ該事ヲ羞テ自己ハ拒ミタルヲ強テ姦セシト定メテ云シナラン之ハ女ノ情ニ付咎ムルニ不足ト雖モ自己モ淫心ヲ起シマントウノ上ニ打轉ロヒ相戯レシモノヲ爭カ害ヲ被ル者ト云フ可シ且又各證人ノ陳述及ヒ云々トアレヒ暗夜中私ト「ミツ」兩人ノミニテ他ニ人ナシ善助良藏等ノ所業ハ私該場ヲ去テ後ノ「ナレ」ハ私モ之ヲ知ラス彼等モ何ソ私ノ所業ヲ知ルヲ得ン然ラハ各證人ノアル可キ道理ナシ勿論豐岡警察署云々ノ儀ハ私ニ於テ更ニ相分ラス豐岡ニ於テノ御糺問并上申ノ義ハ前述ノ通毫モ相違ナシ然テ何ト御書取ニテ姫路ヘ送ラレタル哉不審ノ至也抑強姦ナルモノハ女子ヲ挑ムニ敢テ聞入レサルヲ強テ之ヲ引倒シ或ハ口ヲ押ヘ或ハ手足ヲ動カサ、ル様致シ又ハ之ヲ括リ杯シテ暴威ヲ振り押テ姦淫スルヲナル可シ併之モ一人ト一人ニテハ假令少女ナリモ行フ能ハス必ス手傳ヒノ者ナクソハ何ソ姦淫心ヲ通シタル所業ヲ無理ニテ強姦ト名付玉フイハレ無シ尤前顯ノ如ク「ミツ」一應拒ハミシハ女子ノ常態ナレヒ終ニ承諾シ共ニ竊ニ路外ヘ行キ暫時相戯レ「ミツ」モ十分歡樂ヲ極メシテ何ソ強姦トナシ玉フヤ此ニ於テ該刑ハ敢テ承服シ得ス伏テ冀クハ右ノ情狀御了察ナシ下サレ何卒至公至正ノ御處分奉仰候依之此段奉告候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審閱スルニ共犯人藤原良藏證人西田熊藏等於テ路傍ニ女ノ泣キ聲スルヲ聞付ケ云々ノ供出アリ且船田音藏カ嚮ニ豐岡警察署ニ於テ爲タル口供ト被害者西田「ミツ」ノ申立ト符合スルヲ以テ前供ハ眞實ノ白狀ナリト信認セサルヲ得ス然ルニ音藏於テハ前供ヲ反異シ強姦ニアラスシテ和姦ナリト申供スト雖モ前供ニ對シ一モ反對ノ證左ナキヲ以テ原裁判所於テ之ヲ排却シ衆證ト前供トニ據リ犯姦律犯姦條強姦スル者ハ流三等トアルニ照シ酌減シテ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ船田音藏ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第八百八十九號

明治十四年六月六日上告
 明治十四年六月廿九日判決

兵庫縣平民但馬國氣多郡伊

府村新左衛門長男

增 田 龍 藏

明治十四年五月
 二十五年五月生

右龍藏カ所爲ニ對シ明治十四年五月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ
 其方儀明治十四年四月四日夜船田音藏等カ篠垣村太七郎娘西田「ミツ」ヲ強姦セシ場所ハ
 佐田村ヨリ自村ヘ歸ル田徑ニ付通行ノ際誤テ男歎女歎ノ手カ足カニ躓キタレヒ身自ラ人

ノ手足ヲ押ヘタル事ハ更ニ無之且豊岡警察署ニ於テ爲シタル口供ハ無理ニ書キ取ラレタルモノナリト前供ヲ翻異スルモ口頭無證ノ申立ハ稽フルニ由ナク且被害者及各證人ノ陳述ハ前供ニ符合スルヲ以テ良造ノ強姦スルヲ容易ナラシメン爲メ「ミツ」ノ手ヲ押ヘタルハ明晰ナリトス因テ右科雜犯律不應爲重ニ問ヒ凡律令ニ正條ナシト雖モ情理ニ於テ爲スヲ得ヘカラサル事ヲ爲ス者ハ云々事理重キ者ハ杖七十トアルニ依リ懲役七十日申付ル増田龍藏於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月六日附テ以テ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀固ヨリ緋屋職業ノ者ニ有之候然ル處明治十四年四月四日夜同郡佐田村ノ地先ニテ常光寺ト申寺有之該寺ニ於テ釣鐘ヲ引クニ付テハ所在ノ人員カ集リ大ヒニ賑敷事故同夜右常光寺へ參詣仕リ候處前記佐田村ニ於テ淨瑠璃理カ有之趣ヲ聞付夫レヨリ佐田村へ罷越シタル處淨瑠璃理無之ニ付該村ヲ空敷退キ自村へ歸ル田徑ニ付通行スル道ニ於テ何所誰レトモ不知シテ男ト女ト二三人最寄テツクナシ何角咄シ合テ致シ居候處ヲ自分ハ除テ其際ヲ通行スル際誤テ男歟女歟ノ手カ足カニ躓キタルニ付現場ニ於テ一言正誤シテ夫レヨリ直ニ其場所ヲ退キ自村へ歸宅仕候義ニ相違無御座候事然ル處宣告書ニ記載アルハ「被害者及ヒ各證人ノ陳述ハ前供ニ符合スルヲ以テ龍造ノ強姦スルヲ容易ナラシメン爲メ「ミツ」ノ手ヲ押ヘタル明晰ナリトス」トアル然レモ身自ラ人メ手足ヲ押ヘタル事ハ毫髮モ無之義ナリ因テ同人等ノ虛誕ニ屬スルモノト認定スルニ付因テ此義ハ更ニ承服能ハサル處ナリ

一前顯上告ノ通り事實相違無之然ルニ事實トハ大ヒニ齟齬セルヲ以テ了解スル能ハス因テ這回上告ニ暨ヒ候條至公至平ノ御裁判被成下度此段伏テ奉懇願候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿記ヲ審閱スルニ安東幾藏西田熊藏等於テ藤原良造カ強姦スル際清一郎事増田龍藏カ西田「ミツ」ノ手ヲ押居タリト嚮ニ豊岡警察署ニ於テ申立西田「ミツ」ノ申供ト符合スルノミナラズ龍藏於テモ嚮ニ警察署ニ於テハ一旦女ノ手ヲ握リタリト申供シタリ然ルニ女ノ手カ足カニ躓キタルノミニテ女ノ手ヲ握タルヲ無之ト前供ヲ反異スト雖モ各證人等ノ證言及被害者「ミツ」ノ申立ニ照シ原裁判所ニ於テ良造ノ強姦スルヲ助勢シタルモノトシ雜犯律不應爲條ニ依リ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年五月三十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ増田龍藏ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキコ依リ上告狀却下スル者ナリ

第八百九十號

○判文(不參ノ件)明治十四年六月九日上告
明治十四年六月廿九日判決

石川縣金澤區水溜町士族

寺内景勝

年齢詳ナラス

明治十四年六月七日金澤裁判所ニ於テ右景勝ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀當區裁判所ノ召喚ヲ受ケ屢不參致スニ付明治十年第五號公布ニ依リ罰金貳圓申付

景勝ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月九日付ヲ以テ大審院ニ差出シタル上
告狀ノ要領ハ左ノ如シ

上告人ハ明治十四年二月二十八日大坂筋ニ旅行シ留守中ハ原田種輝ニ總理代人ヲ委任シ
置キ六月一日歸宅シタルハ金澤區裁判所ノ召喚ヲ受ケタルコトナクシテ種輝モ亦之ヲ知ラ
ス因テ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ民事原告人八田甚二カ被告拘引願書ニ明治十四
年四月三十日金澤區廣坂通りコテ被告寺内景勝ニ出會シタルニ付官廳へハ旅行ト詐リ當
地ニ潜伏セシヲ以テ警察署ニ同伴訴出セント應接中廣瀬長次郎ナル者其仲裁ヲ爲シタル
トアリテ長次郎ノ上申書ニ符合シ其確實ナルコトヲ認メラル、ニ因リ原裁判所ニ於テ上告
人ハ召喚ニ係ルヲ知テ規避シ不參シタルモノト認定シタルハ不當ノ裁判ト爲スヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月七日金澤裁判所ニ於テ寺内景勝ニ言渡シタル裁判ハ破
毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ
第八百九十一號

○判文(郷貫氏名及身分詐稱ノ件)明治十四年六月八日上告
明治十四年六月廿九日判決

ヤ

茨城縣常陸國久慈郡大生瀨
村士族清左衛門長男

齋藤萬之助

明治十四年六月
二十九年二月

明治十四年六月三日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ右萬之助ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀先キニ賭博ノ科ニ依リ當廳ニ於テ刑ヲ受ケルキ郷貫名及ヒ士族ナルニ平民ト詐稱
スル科雜犯律不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日士族ナルヲ以テ閏刑ニ處スヘキ處已ニ懲役八
十日ノ刑ヲ受ケルニ由リ二罪俱發例ニ照シ其罪ヲ論セス其懲役八十日ハ閏刑ニ改正シ已
ニ經過スル日數四十八日ヲ扣除シ剩ル禁獄三十二日申付ル

但推問曠過ノ日數ハ本罪ニ算入セス

栃木縣六等警部天野武三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月八日附ヲ以テ
司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣ハ左ノ如シ

該犯ハ郷貫名及ヒ士族ナルニ平民ト詐稱シ明治十四年四月十五日水戸裁判所栃木支廳ニ於
テ賭博罪ヲ以テ懲役八十日ノ處斷ヲ受ケ服役中右詐稱ノ罪發覺シタル者律例第四十一條
第二百八十八條及第十三條改正條款ニ依リ士族ナルヲ以テ禁獄二十日其後犯ノ罪ヲ前犯
ノ罪ニ通算シ科斷スヘキモノトス然ルニ該裁判所ニ於テハ右詐稱ノ罪ハ餘罪ナリトシ名
例律二罪俱發例ニ照シ其罪ヲ論セスシテ單ニ懲役ヲ禁獄ニ改メタリ抑モ該犯ノ如キハ處
斷后尙繼續シテ族籍ヲ詐稱セシモノニシテ其發覺ノ日ハ即犯罪ノキナルヲ以テ役限内又

罪ヲ犯シタルヤ明瞭ナリ之レ該裁判ヲ不適當ト見込破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

齋藤萬之助カ被告事件ヲ審案スルニ士族ニシテ平民ト詐リ郷貫及ヒ其名モ亦實ヲ以テセ
ズ自ラ法律上閨刑ヲ適用セラル可キ權利ヲ拋棄シ甘シテ懲役ニ就キタルハ其犯罪人事
實父母親屬等ニ傳播スルチ恥ルノ情ニ出ル者ニシテ他ニ規避スル處アルニ非ス依テ本件
ノ如キハ其所爲刑期内ニ發覺スル時ハ相當ノ法律ニ改正スルニ止マリ更ニ刑律ニ問擬ス
ヘキモノニ非サルナリ然ルニ原裁判所ニ於テ不應爲條ニ依リ處斷シタルハ不當ノ裁判ナ
リト雖モ二罪俱發例ニ照シ其罪ヲ論セサリシニ因リ萬之助ノ受クヘキ刑ニ輕重ノ差ナキ
ヲ以テ破毀ノ限ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年六月三日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ齋藤萬之助ニ言渡シタ
ル裁判ハ破毀ノ限ニアラストス

第八百九十二號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年六月二日上告
明治十四年六月三十日判決

滋賀縣近江國犬上郡彦根川

原町裏町士族

服部宗二

明治十四年五月
四十九年

右宗ニカ所爲ニ對シ明治十四年五月二十六日京都裁判所彦根支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シ
タリ

其方儀小澤彦次郎へ借用金ノ抵當トナシタル物件ヲ中島勇へ賣却スル科ハ雜犯律不應爲
條不應爲輕ニ問ヒ懲役卅日中島勇ヨリ預リ居ル物品ノ内若干ヲ森居三三ニ他人ノ物品ナ
ルヲ隱匿シ貧困ナルヲ以テ買取り吳レ度トテ賣買ノ約ヲナシ其代價トシ金拾圓欺キ取
ル科ハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役七十日以上二罪俱發ナルヲ以テ名
例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財條ニ依リ懲役七十日自首スト雖モ不實ナ
ルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ首免ヲ與ヘサルモ罪已ニ盡スニ依リ詐欺財ヲ得サルモ
ノト同シ論シ士族ニシテ破廉耻甚ニ係リ而シテ醫師藤崎某ノ診斷書ヲ以テ癡疾ノ旨申
立ルト雖モ醫師澁谷某岡島某ノ診斷及實際目撃スル處ニ據テ看レハ癡疾ニ非ラスト認定
ス仍テ改定律例第十三條ニ照シ除族ノ上答四十申付ル

滋賀縣八等警部神谷一二ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月二日附テ以テ本
院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ
抑本案ノ被告服部宗二ノ犯罪ハ自己所有ノ動產物ヲ(甲)小澤彦次郎へ抵當ニ差入レ金借
スルノ後チ其抵當品ヲ擅ニ(乙)中島勇へ賣却シ對談上ニテ其現品ヲ預リ置キ其預リ品ヲ
自儘ニ(丙)森居三三へ賣却シ其非ヲ悔ミ(乙)勇へ首服スルモノニ過キサレハ(甲)彦次郎
へ抵當ニ差入レ置ク物品ヲ擅ニ(乙)勇へ賣却スル罪ハ雜犯律不應爲輕キニ問擬シ(乙)勇
ヨリ預リ置ク物品ヲ自儘ニ(丙)三三へ賣却スル罪ハ同律費用受寄財產條凡他人ヨリ財物

蓄産ノ寄托ヲ受ケ輒シ費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアルニ擬シ名例律犯罪
自首條ニ照シ首免ヲ與フ可キモノトス以上二罪俱發スルヲ以テ一ノ不應爲輕懲役三十日
士族ナルニヨリ閩刑律第十三條凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ストアルニ依ル可キモノ
ナルニ然ルチ京都裁判所彦根支廳ニ於テハ被害者〔甲〕彦次郎へ差入レ置ク抵當品ヲ擅ニ
〔乙〕勇へ賣却スル罪ハ相當裁判セラル、モ今一ノ被害者〔乙〕勇ヲ措キ〔丙〕三ニ被害者
ト做シ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ自首スト雖モ首免ヲ與ヘス贓已ニ盡ス
ニ依リ詐欺財ヲ得サルモノト同シク論シ破廉耻甚ヲ以テ論シラレタルハ不法ノ裁判ト思
量ス

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十六日服部宗二へ宣告セラレシ京都裁判所彦根支
廳ノ裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ裁判相成度此段上告候也

辨明

上告ニヨリ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ被告人服部宗二カ小澤彦次郎へ抵當ニ爲シタル
物品ヲ擅ニ中島勇へ賣渡シタルハ雜犯律不應爲條ニ問ヒ勇ヨリ預リ置キタル品物ヲ森
居三ニ賣却セシハ賊盜律詐欺取財條人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲ス者ニ擬シ贓ニ計
ハ竊盜ニ準シテ論シ名例律二罪俱發以重論條及ヒ改定律例第十三條改正律ニ照シ處斷ス
可キモノトス然ルニ本犯ニ於テ明治十四年五月四日右所爲ヲ彦根警察署へ首出スト雖モ
不實ニ係ルヲ以テ減免ヲ與ヘサルモ森居三ニ該品ヲ賣却セシ所爲ハ明治十四年五月一
日事主中島勇へ首服シタルハ犯罪自首條若強竊盜及ヒ詐僞シテ財物ヲ取り事主ノ處ニ於

テ首服シ云々官司へ自首スルト同ク皆其罪ヲ免ストアルニ據リ現贓ノ有無賠償ノ成否ヲ
審糺シ其罪ヲ減免シ本案ヲ結了ス可キモノナルコ原裁判所ノ裁判玆ニ出ス輒ク其罪ヲ斷
了シタルハ聽斷ノ定規ニ背ケル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十六日京都裁判所彦根支廳ニ於テ服部宗二へ言渡シ
タル裁判ヲ破毀シ更ニ大阪裁判所ニ於テ審問スヘキ旨ヲ達シタルニ付滋賀縣八等警部神谷
一二ニ於テハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第八百九十三號

○判文(闘毆ノ件) 明治十四年五月二十一日上告
明治十四年六月二十日判決

廣島縣備後國御調郡尾道尾

崎町平民

濱 田 美 助

明治十四年五月
五十年六ヶ月

明治十四年五月廿五日廣島裁判所ニ於テ右美助へ左ノ裁判ヲ言渡シタリ
其方儀前田光平方忍入り財物ヲ搜索中光平長男保太郎ニ被見咎追捕スルヲ拒キ背部二ヶ
所ニ鐵付傷ヲ負ハスルノミナラス組合轉倒ノ際懷ニスル出刃庖丁ノ刃先ニテ誤テ同人ノ
脇腹へ傷ヲ負ハスル等右科ノ内一ノ重キ賊盜律竊盜條若シ盜ニ因テ過失傷スル者ハ凡闘
毆ニ一等ヲ加フトアルニ依リ改定律例第二百十四條ニ照シ傷輕キ者ニ付懲役七十日ニ一

等ヲ加懲役八十日ヲ換ヘ杖八十申付ル
廣島縣八等警部吉岡美秀ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年五月三十一日ヲ以テ
司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右ノ判文ヲ按スルニ廣島裁判所ハ本犯カ事爲ニ對シテ三個ノ罪アリトセリ曰ク竊盜未得
財曰ク罪人拒捕曰ク盜ニ因テ過失傷是ナリ而シテ盜ニ因リ過失傷ヲ以テ重キトシ斷定セ
リ蓋シ誤レリ矣不適法ノ裁判ナリト考量ス其要點ニアリ第一竊盜未得財ニ非サル事第二
盜ニ因テ過失傷ニ非サル事請フ其理由ヲ開陳セン抑モ本犯カ尾道警察署ニ於テ爲タル口
供ヲ閱了スルニ第一加島定平方ニ忍入吸物椀十一人前竊取セシコト自陳シ贓品現存セリ
是未得財ニ非サル所以ナリ第二前田光平方ニ忍入財ヲ搜ルノ際光平長男保太郎ニ覺逐セ
テ窮迫ノ餘携フル出刃庖丁ヲ以テ拒捕シ爲メニ負傷セシメタルコト明言セリ是過失傷
ニ非サル所以ナリ殊ニ第二項ノ如キハ官本犯ノ供述ノミナラス被害者ノ告訴狀ニモ案外
竊中ヨリ出刃庖丁ヲ取出シ左脇腹ヲ衝切タリト云本犯供述スル所確實ナル如此然ルニ本
犯ハ公判庭ニ於テ前供ヲ翻異シ過失傷ナル旨主張セリ是全ク刑ノ輕減ヲ萬一ニ僥倖セン
トスルノ奸策タル知ルヘシ夫レ罪人捕ニ就キ初テ豫審ノ鞫庭ニ出ルヤ畏懼或ハ奸詐ノ念
ナク犯情ヲ吐露シテ餘蘊ナキモ一旦獄ニ繫カレ兇惡ノ徒ニ接スルヤ彼等カ詐言ヲ妄信シ
或ハ密ニ教唆セラレ己レカ犯跡ヲ湮滅又ハ輕減セントノ非望ヲ企テ公判庭ニ臨ムニ及テ
條子前供ヲ翻改シ誣服ト云ヒ冤罪ト云ハ古今一轍ノ弊害ニシテ主獄者ノ汲々トシテ豫防
シ救々トシテ改良セント欲スル所以ノモノタリ豈單リ本犯ノミナランヤ然レモ法ニ斷罪

依證ノ明文アリ其罪證ノ完備ナル上ハ前後口供ノ殊異アルモ何ノ妨カ之アラン且ツ本犯
ハ警察官ニ對シテ爲タル口供中云々事實ニ反セシ申立ナリト云ト雖モ何カ故ニ事實ニ違
タル申立ヲ爲セシカ之レカ解釋ヲ下セハ警察官カ強迫シテ事實ニ反セル口供ヲ徵セシト
云ニ外ナラサルヘシ蓋シ變供者カ毎ニ藉テ以テ口實ト爲スノ套語タリ試ニ思考セヨ本犯
ノ如キハ現時ノ捕獲ニ係リ現場ニ贓品アリ兇器アリ被害者ハ自ラ現況ヲ陳シ證人モ亦實
狀ヲ述フ罪ヲ斷スルノ證具レリ何ヲ苦ンテカ強テ口供ヲ要センヤ況ヤ法ニ嚴禁アルコト於
テオヤ然ハ則本犯カ前供ハ自由任意ノ供述ニシテ却テ後供ノ不實タルヲ覺フルナリ加之
本犯ノ事主ニ覺逐セラレタルハ恰モ庖丁ヲ携ヘ戸棚ヲ破毀セントスルノ時トシテハ懷ロニ
收ルノ暇ナキ而已ナラス兩者組合ノ際甲本犯カ懷ロニセシ庖丁ノ左脇ヨリ突出シテ乙主ノ
左肋ニ徹スルノ理ナク却テ乙ノ左肋ハ甲カ右手ニ刺ニ利アルニ似タリ況ヤ傷重カラス
ト云ト雖モ僅ニ刃先キノ觸タルカ如キ輕微ノ傷ニ非サルニ於テオヤ是等ノ事項ヲ推測參
照セハ益前供ノ眞實ナルヲ徵スルニ足ル又被害者前田保太郎ノ公判庭ニ爲タル陳述書ノ
二項警察署ニ臻リテ鮮血ノ迹ルヨリ初テ負傷ヲ覺ヘタルト云カ如キハ太甚ニキ事實ノ違
フタルモ已ニ證人ノ手續書巡查ノ捕縛書等ニテ明ナレハ辨スルヲ要セサルヘシ然レモ本
犯并被害者其供述ヲ變更シタルハ前供及ヒ證人ノ陳述等ハ判官心證ノ資ト爲スニ足ラス
トシ假ニ後供ヲ眞實トセシカ是拒捕ノ爲メ過失傷スル者ニシテ盜ニ因テ過失傷ニ非ス如
何トナレハ盜ハ忍人ルニ始リ逃走シタルニ終レリ故ニ若シ拒捕ヲ爲サレハ過失傷スルノ
理ナケレハナリ果テ拒捕ノ爲メ負傷セシメタリトセハ過失ト故意トヲ問ハス折傷以上ニ

アラストシ加二等ニ隨フモノナラン右ノ理由ナルヲ以テ本犯カ罪ヲ斷スルハ賊盜律竊盜條及ヒ例圖ニ照シ賍金壹圓以下懲役五十日捕亡律罪人拒捕條ニ依リ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役七十日ニ處スヘキ者ナルヘシ以上廣島裁判所カ本犯ニ宣告シタル裁判ヲ不適法ト思考スルノ所以ナリ

四七二

辨明

本犯濱田美助カ前田光平方ヘ忍入り財ヲ得スシテ逃走ノ際追捕ヲ拒カンカ爲メ右光平方男前田保太郎ニ咬付或ハ刃物ヲテ傷ヲ負ハセシハ俱ニ折傷以下ニ係ルヲ以テ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ竊盜未得財ノ罪ニ二等ヲ加ヘ懲役六十日亦本犯美助カ加島定平方ニ於テ物品ヲ竊取セシハ本犯美助カ明治十四年五月四日廣島縣警察官ニ對シ爲シタル口供及ヒ被害人加島定平方盜難届書ニテ瞭然ナルニ付其物品ヲ估計ノ上名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キニ從テ其罪ヲ科スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ裁判茲ニ出サリシハ審理ヲ盡サハル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナレヲ以テ明治十四年五月廿五日廣島裁判所ニ於テ濱田美助ヘ言渡シタル裁判ヲ破毀シ神戸裁判所岡山支廳ニ於テ審判スヘキ旨相達タルニ付廣島縣八等警部吉岡美秀ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第八百九十四號

○判文(囚人ニ鋸ヲ與ヘシ件)明治十四年六月八日上告
明治十四年六月三十日判決

栃木縣下野國安蘇郡佐野町
平民

若松榮次郎

明治十四年二月

三十五年

右榮次郎カ所爲ニ對シ明治十四年五月三十一日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル

其方儀栃木縣佐野警察所拘留ノ囚人大阿久楨次郎等ニ鋸ヲ與フル科改定律例第三百十二條ニ依リ懲役九十日ノ處本犯自死スルヲ以テ名例律犯罪共逃條末項ニ擬シ連累人ナルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役七十日申付ル

栃木縣十等警部吉田儀軌ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月八日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

本犯若松榮次郎ハ栃木縣佐野警察署拘留人大阿久楨次郎穂谷新太郎ノ依頼ニ應ジ鋸ヲ該拘留人ヘ與ヘタル者ナリ此罪タルヤ拘留人ノ依頼ニ原由スル如シト雖モ其在監人ノ依頼ヲ爲シタル件ハ律例上之ヲ罪トナサス故ニ本罪ハ其原由ノ何タルヲ問ハス獨若松榮次郎ノ自由ヲ以テ犯シタル所爲ト爲シ改定律例第三百十二條ニ依リ懲役九十日ニ處スルハ固ヨリ適當ナリトス然ルチ水戸裁判所栃木支廳ニ於テハ在監人楨次郎等ヲ與囚金刃罪ノ本犯ト爲シ犯罪共逃條末項ニ擬シ本罪ニ二等ヲ減シタルハ不當ノ裁判ト謂フヘシ

辨明

四七三

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ若松榮次郎ニ於テハ囚人大阿久楨次郎ノ依頼ニ
 應ジ獄中ニ鋸ヲ差入レタル所爲ハ改定律例第三百十二條凡常人囚ニ金刃ヲ與ヘ云々各獄
 卒ノ罪ニ一等ヲ減ストアルニ擬スヘキ者ナリトス而シテ榮次郎カ所爲タル身自ラ犯スノ
 罪ニシテ人ノ犯罪ニ因リ連累シテ罪ニ致ス者ニアラス又楨次郎カ死タルヤ脱檻ノ際
 郎カ與ヘタル金刃ヲ以テ監守者ノ捕ヲ拒ミ因テ毆殺セラレタル者ニシテ自死シタルニ非
 テ脱檻セシニアラス

〔次〕
 ナルナリ然ルチ原裁判所ニ於テハ榮次郎ノ罪ヲ論スルニ楨次郎カ連累人トナシ名例律犯
 罪共逃條其人ニ因リ連累シテ罪ニ致シ云々トアルニ照シ楨次郎カ自死シタルトナシ減等
 シテ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月三十一日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ若松榮次郎ニ言渡
 シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

若松榮次郎

右ハ前ニ辨明スル如シナルヲ以テ改定律例第三百十二條ニ擬シ
 懲役九十日

第八百九十五號

○判文(遺忘品ヲ拾ヒ事主追跡返還ノ件)明治十四年六月二日上告
 明治十四年六月三十日判決

大分縣豊後國直入郡玉來村
 九拾三番戸平民國五郎長男

原田森太郎

明治十四年五月
 十七年六ヶ月

明治十四年五月二十八日長崎裁判所ニ於テ右森太郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年五月八日長崎縣西彼杵郡日見峠ヨリ日見村へ降ル路傍茶店ノ椽先キニ
 於テ休息ノ際江浦村原田又助カ遺忘シタル縮緬服紗包ヲ持去リタルハ得遺失物律ノ刑ヲ
 適用スヘキモノト認メ檢察官ノ公訴シタル事件遂審問處其方ニ於テハ又助カ遺忘シ置タル
 服紗包ヲ持去タルハ相違ナキモ該包ノ内ニアリシ壹通ノ書付ハ不用ト存シ川端へ拾置
 タル後原田又助追跡シ來リ該品遺忘シ置タルヲ承知セサルヤト尋テ受タル故落居タル
 ヲ持參シタル旨ヲ答ヘ仍ホ又助ノ申スニ應ジ該品ノ儘差出タル處病理通論卒業證書壹通
 無之旨ヲ以テ尋受タルヤ右ハ拾遺タル書付ト存シタレトモ僞テ該書包込無之旨申向ケタ
 ルヨリ一時雙方申争タル後右證書ハ拾遺タルヲ持參スヘキニ付内濟致シ呉ル、様段々相
 詫タレヒ聞込無之内拘引セラレタル旨申立原田又助ニ於テハ日見村茶店椽先キへ休息ノ
 際服紗包ヲ遺忘シ置タルヲ覺知シ途中ヨリ引戻シタルハ該品無之然ルニ同時休息シタル
 原田森太郎へ嫌疑アルヲ以テ追跡シタルニ全ク同人拾ヒ取來リシ由ニテ該品ヲ出セシモ
 卒業證書壹通不足スル故相尋シニ該書ハ入レ無之旨申張リ不審ヲ生シ山本民太ヲ以テ警
 察分署へ届方ヲ倚頼シタル末該書ハ拾遺タルヲ持參スヘキニ付内濟致シ呉ル、様森太郎
 相詫タレヒ既ニ届出タル後ニ付承諾致サ、リシ處同人拘引セラレシ後分署ノ達ニ應ジ盜
 難届差出タル旨申立タリ

右ニ依レハ其方ノ所爲タル明治十四年五月八日日見村路傍ノ茶店椽先キへ原田又助カ遺忘シタル服紗包ヲ拾ヒ去ル途中又助ニ追跡セラレ事由尋ネ受ケタル際該品ヲ出シ私和ヲ求メシモノニシテ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ト同視スヘカラサル者トス

依テ法律ニ照スニ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第一條ニ曰ク凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨ンテ物主其場ニ就テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得スト右ノ理由ニ依リ其方ハ得遺失物律ヲ以テ論スヘキ罪ナキモノナリ

長崎裁判所詰檢事補松本堅葉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年六月二日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

抑本犯カ該遺失物ヲ得ルヤ明治十四年五月八日長崎縣西彼杵郡日見村路傍ノ茶店ニ於テ原田又助ナルモノト共ニ休息シ又助ハ本犯ヨリ先キニ立去リ所持ノ服紗包ヲ該茶店椽先ニ遺忘シ置キタルニ本犯ハ路費困窮ノ爲メ盜心ヲ發シ竊ニ之ヲ取去リ其途中ニ於テ之ヲ開キ見タルニ袴一着ト病理通論卒業證書在中ナリシニ右書類ハ不用ナリトシ之ヲ諫早町川端ニ投棄シ犯所ヲ距ル凡六里餘ナル長崎縣北高來郡諫早町山本民太方ニ立寄り居リシニ事主又助ノ追跡シ來テ尋問ヲ受ケタルヨリ該品持來リシ趣相答内袴ハ服紗包ノ儘還付シ内病理通論卒業證書ハ該包ノ内ニ在ラサリシ旨一時詐言セシモノ之レヲ警察分署へ告訴セラル、ノ情勢ヲ見テ忽チ投棄シタルノ實ヲ告ケ私和申入タリ

右ハ本犯口供ニ就テ節錄セシ者ニテ之ヲ事實ニ照スニ本犯ハ既ニ又助ノ遺忘品タルヲ明知シ居ルノミナラス公路又ハ原野ト異ナル即チ人ノ家庭内ニ於テ之ヲ取り身ハ遠キニ到ラントスルニ〔犯所ヨリ本犯カ到ラントスル〕僅々八拾錢ノ路費ノミヲ所持シ〔第五號〕右遺失物ヲ得ルニ方テ其家ニ告ケス竊ニ持去リシ事蹟ハ本犯カ初メノ口供ニ路費困窮ノ折柄不圖惡心ヲ起シ盜ニ取リシトノ自白ニ適合シ本局及ヒ公判ノ陳述ニ於テ亦盜ニシニ非スト明言セサルノミナラス公判庭ニ於テハ病理通論ト卒業證書トハ不用ト存シ拾置シトノ申立アリテ不用有用ヲ區別セシハ其有用ノ分ハ即チ己レノ所得トナシタルモノト認ムヘク斯ク人ノ家庭内ニ在テ遺失ノ物ヲ得之ヲ其家ニ告ケ去テ其不用ノ分ヲ棄テ有用ノ分ノミヲ持行シハ此時既ニ隱匿シテ官ニ送ラス主ニ還サス己レノ所得トナシ畢シモノナリ而シテ又之ヲ事主ニ還却セシ趣意ハ長崎裁判所カ附援セシ遺失物規則第一條トハ大ニ異ナリテ全ク事主追跡勢免レ難キヨリ一旦所得トシタルヲ更ニ還却セシモノナルコト明ナリ何トナレハ彼ノ書籍ハ袴ト共ニ還却セサルノ意ヲ以テ之ヲ捨テ又始メノ盜心ヲ掩ハン爲メ之レアラサル旨詐言セシハ事主來ラハ直ニ還却セントノ旨趣アラサリシモノナレハナリ

右ノ如ク其所犯初メ盜心ニ出シモ其物品遺失物ニ掛リ且事主ノ追跡ヨリ之ヲ還却セシハ得遺失物律ニ就テ酌量輕減スヘキ情狀アルヘキモノ之ヲ無罪視スルノ理由アルヘカラス依テ長崎裁判所ノ裁判破毀ヲ未ムル爲メ別紙一件書類送呈具申仕候也

辨明

被告原田森太郎カ路傍ノ茶店ニ於テ他人ノ遺忘セシ服紗包ヲ得テ店主ニ告ケス之ヲ持去
リ其包中不用ノ書類ヲ途中ニ投棄シ袴一品ヲ所持シ右茶店ヲ距ル六里餘ノ地ニ止宿シタ
ルハ即遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サ、ル者ニシテ其犯狀明白ナルト上
告官ノ陳述スル所ノ如シ然ルニ原裁判所ニ於テ得遺失物律ヲ以テ論スヘキ罪ナキモノト
處斷シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年五月二十八日長崎裁判所ニ於テ原田森太郎ニ言渡シタル裁
判ヲ平飜スル左ノ如シ

原田 森太郎

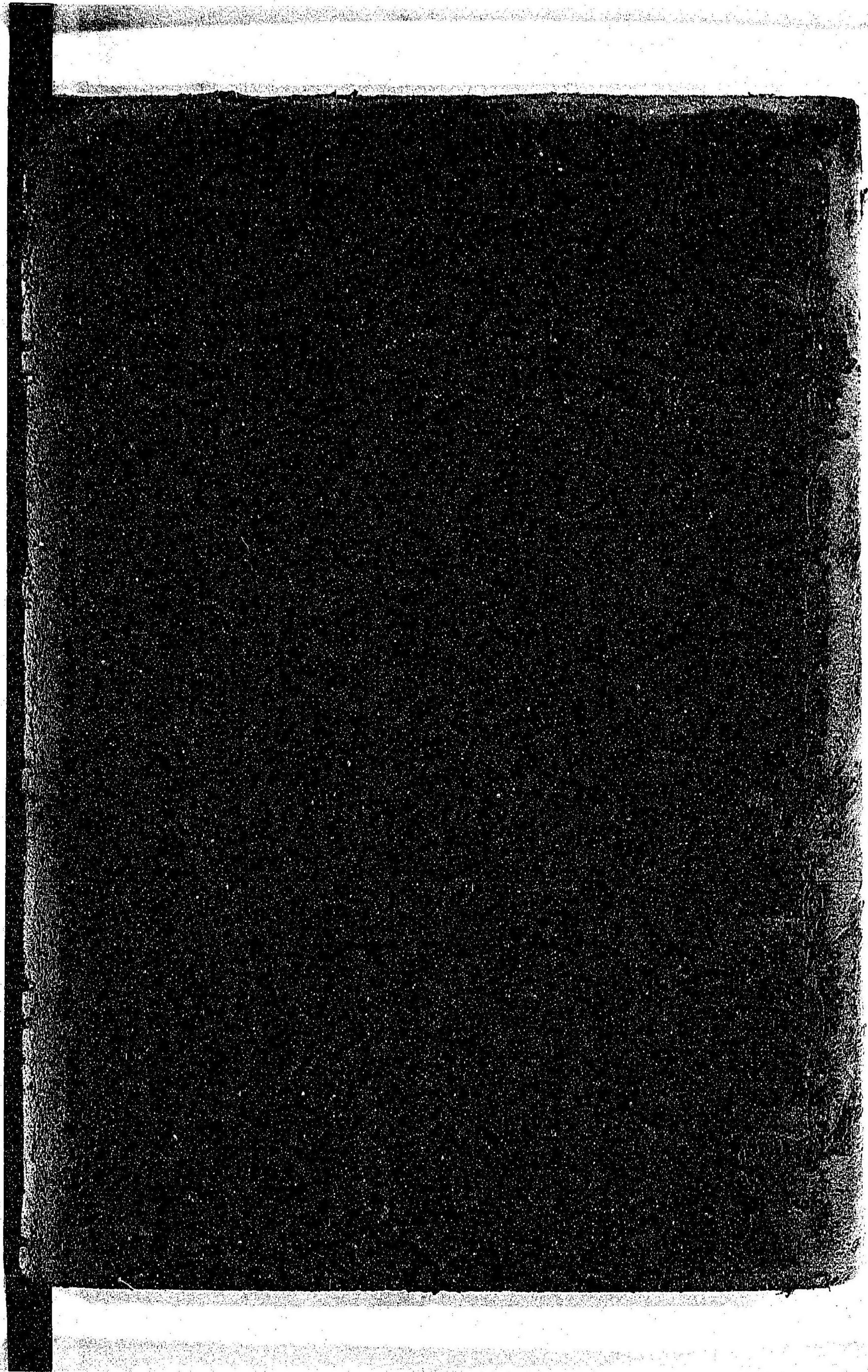
右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律改正得遺失物條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ
減シ贓金壹圓以上懲役五十日ノ處情狀ヲ酌量シ三等ヲ減シ

懲役二十日

147
1

明治十四年二月八日版權屆

定價金壹圓



東京圖書館					
六	一	二	三	四	五
冊	号	架	函	属	類

036550-033-9

CZ-2711-7

大審院刑事判決録

明8. 6-17. 11. 19-20年
司法省

M11-24

BBR-0348

181111-111111

